

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年3月4日

【計算期間】 第25期 自 2019年 6月 5日
至 2019年12月 4日

【ファンド名】 S B I インド&ベトナム株ファンド

【発行者名】 S B I アセットマネジメント株式会社

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 梅本 賢一

【本店の所在の場所】 東京都港区六本木一丁目6番1号

【事務連絡者氏名】 中村 慎吾

【連絡場所】 東京都港区六本木一丁目6番1号

【電話番号】 03-6229-0170

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部 【ファンド情報】

第1 【ファンドの状況】

1 【ファンドの性格】

(1) 【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

本ファンドは、主としてマザーファンド受益証券（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じてインド及びベトナムの株式（当該株式にかかる預託証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）を含みます。）等に投資するものとします。

ファンドの基本的性格

ファンドの商品分類

ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類において、「追加型投信/海外/株式」に分類されます。ファンドの商品分類、属性区分の詳細につきましては、以下のようになります。

なお、ファンドが該当しない商品分類及び属性区分、その定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

商品分類

ファンドの商品分類は「追加型投信/海外/株式」です。

商品分類表（ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信	内外	不動産投信
		その他資産 ()
		資産複合

商品分類の定義

該当分類	分類の定義
追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
海外	目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
株式	目論見書または信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

属性区分

ファンドの属性区分

投資対象資産	その他資産（投資信託証券（株式 一般））
決算頻度	年2回
投資対象地域	エマージング
投資形態	ファミリーファンド
為替ヘッジ	なし

属性区分表（ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。）

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式	年1回	グローバル	ファミリー	あり
一般	年2回	（日本を含む）	ファンド	（適時・部分ヘッジ）
大型株	年4回	日本		
中小型株	年6回	北米	ファンド・	なし
債券	（隔月）	欧州	オブ・	
一般	年12回	アジア	ファンズ	
公債	（毎月）	オセアニア		
社債	日々	中南米		
その他債券	その他	アフリカ		
クレジット	（ ）	中近東		
属性		（中東）		
（高格付債）		エマージング		
不動産投信				
その他資産				
（投資信託証券（株式 一般））				
資産複合				
（ ）				

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

ファンドが投資信託証券への投資を通じて、実質的な投資対象とする資産は「株式 一般」です。

属性区分の定義

該当区分	区分の定義
その他の資産 (投資信託証券(株式一般))	目論見書または信託約款において、主として株式、債券及び不動産投信以外の資産に投資する旨の記載があるものをいい、括弧内の記載は、組入資産を表します。なお、本ファンドにおける組入資産は、投資信託証券(株式一般)です。
年2回	目論見書または信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。
エマージング	目論見書または信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
ファミリーファンド	目論見書または信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいいます。

信託金の限度額

- ・ 2,000億円を限度として、信託金を追加することができます。
- ・ 委託会社は受託会社と合意の上、当該限度額を変更することができます。

ファンドの特色

1 主としてインド及びベトナムの株式(当該株式にかかる預託証券を含みます。)等に投資します。

- 本ファンドは、マザーファンドを通じて、主としてインド及びベトナムの株式等に投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、株式への直接投資に加えて預託証券及び株価連動債を用いた投資も行います。
- 各マザーファンドへの資産配分については、市場環境等を勘案して、委託会社が配分を決定します。ただし、ベトナムの株式への実質的な投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
- 市場環境によってはマザーファンドへの投資を減少させる等、上記と異なる資産配分を行う場合があります。

2 運用資産の一部の運用をSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッド[※]及びLGM・インベストメンツ・リミテッドに再委託します。

インドの株式への投資にあたり、「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」については、SBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドに、「LGM・インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」については、LGM・インベストメンツ・リミテッドに運用の指図の権限を委託します。

※同社はState Bank of India(インドステイト銀行)グループの運用会社であり、委託会社が属するSBIグループの運用会社ではありません。

- 組入マザーファンドは、委託会社の判断により適宜見直しを行います。この場合において組入対象とされていたマザーファンドは、変更されることがあります。

運用再委託先(投資顧問会社)のご紹介**● SBI・ファンズ・マネジメント**

- 親会社はインド最大の国営商業銀行であるState Bank of India(インドステイト銀行)。
- インド株投資のスペシャリストとして、評価機関等より数多くの賞を受賞しています。
- 約50人の経験豊富なプロフェッショナルを始めとして、1,000人超のスタッフが在籍しています(2019年12月末現在)。

● LGM・インベストメンツ

- 1991年にロイド・ジョージ・マネージメントとして設立され、機関投資家を主要顧客とし、香港とロンドンを中心拠点に運用。2011年4月にカナダのBMOフィナンシャル・グループの完全子会社になり、LGM・インベストメンツに社名変更しました。
- 外国人機関投資家として1993年にSEBI(インド証券取引委員会)から初めてFII(外国機関投資家)と認定された会社の一つです。
- 個別企業のボトムアップの長期投資を基にしたアクティブ運用を行っており、インド株投資の専属リサーチチームが年間約200件の企業ミーティングを実施しています。

3 原則として、為替ヘッジは行いません。

- 本ファンドはマザーファンドを通じて外貨建の株式等に投資を行いますので、本ファンド、マザーファンドともに当該通貨と円との為替変動の影響を受けます。

資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができないことがあります。

(2) 【ファンドの沿革】

2007年7月25日 信託契約締結・本ファンドの設定・運用開始

2017年9月 6日 LGM インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）に名称変更

（旧名称：ロイド・ジョージ インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用））

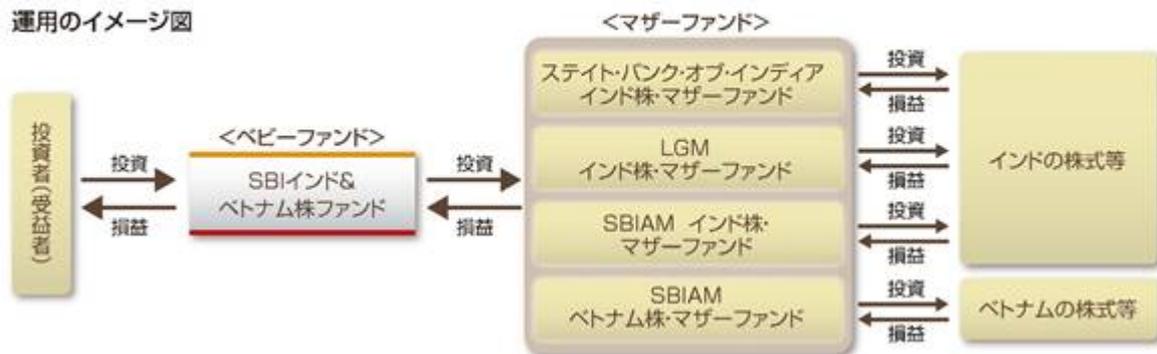
(3) 【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み

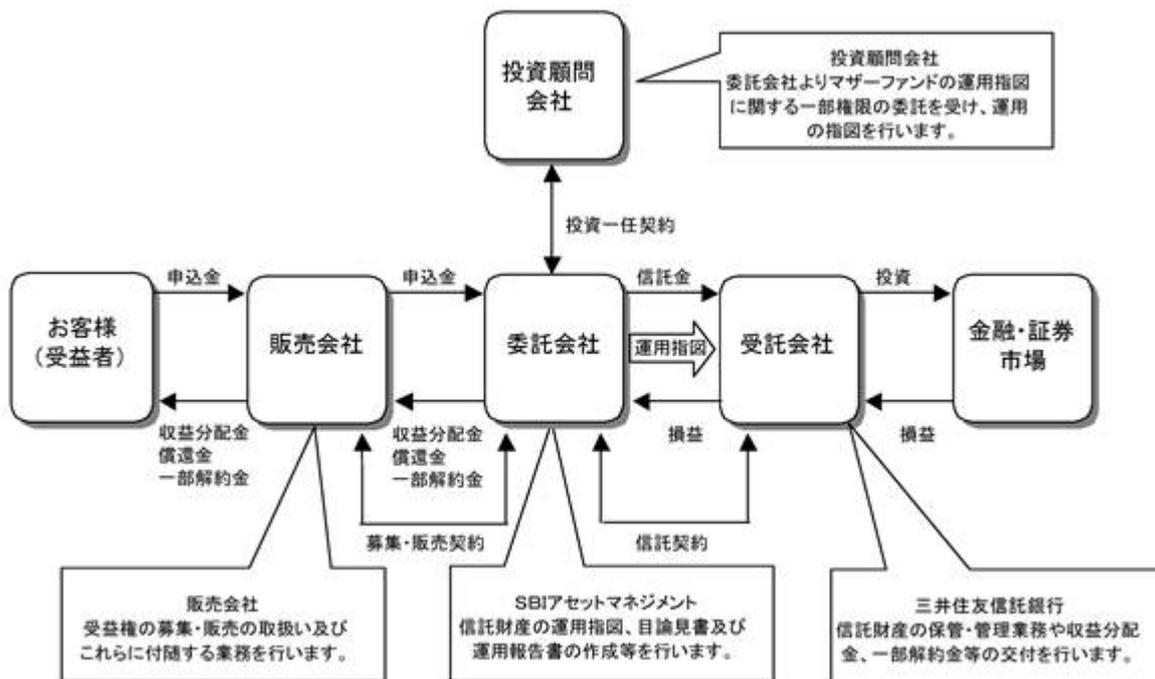
本ファンドの運用は、ファミリーファンド方式で行います。

ファミリーファンド方式とは、投資信託（ベビーファンド）の資金をまとめて、マザーファンドと呼ばれる投資信託に投資し、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

運用のイメージ図



委託会社及び本ファンドの関係法人と契約等の概要



(注)受託会社は、業務の一部を再信託先である日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 に委託しています。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、関係当局の認可等を前提に、2020年7月27日付でJTCホールディングス株式会社および資産管理サービス信託銀行株式会社と合併し、株式会社日本カストディ銀行に商号を変更する予定です。

委託会社の概況（2019年11月末日現在）

(i) 資本金

4億20万円

() 沿革

委託会社は、投資運用業務（投資信託の委託会社としての業務、登録投資法人との資産の運用契約に基づく運用業務または投資一任契約に基づく運用業務）及び投資助言業務（投資顧問契約に基づく助言業務）を行う金融商品取引業者です。

委託会社は、旧株式会社日本債券信用銀行(現株式会社あおぞら銀行)を設立母体として成立し、その後、株主の異動によりソフトバンクグループの一員となりました。2002年5月1日には、同グループのソフトバンク・インベストメント株式会社の子会社である、ソフトバンク・アセット・マネジメント株式会社と合併し、エスピーアイ・アセット・マネジメント株式会社に商号を変更しました。

2005年7月1日には、S B I アセットマネジメント株式会社に商号を変更しました。

2006年8月2日には、委託会社の親会社（現S B Iホールディングス株式会社）の主要株主であるソフトバンク株式会社（現ソフトバンクグループ株式会社）の子会社が、現S B Iホールディングス株式会社の全株式を売却したことにより、ソフトバンクグループから独立し、S B Iグループの一員となりました。

2012年10月12日には、委託会社の全株式をS B Iグループの一員であるモーニングスター株式会社が、S B Iホールディングス株式会社より取得しました。

1986年 8 月29日	日債銀投資顧問株式会社として設立
1987年 2 月20日	有価証券にかかる投資顧問業の規制等に関する法律第4条にかかる登録
1987年 9 月 9 日	有価証券にかかる投資顧問業の規制等に関する法律第24条1項の規定に基づく投資一任契約業務の認可
2000年11月28日	証券投資信託及び証券投資法人に関する法律第6条の規定に基づく証券投資信託委託業の認可
2001年 1 月 4 日	あおぞらアセットマネジメント株式会社に商号を変更
2002年 5 月 1 日	ソフトバンク・アセット・マネジメント株式会社との合併により、エスピーアイ・アセット・マネジメント株式会社に商号を変更
2005年 7 月 1 日	SBIアセットマネジメント株式会社に商号を変更
2007年 9 月30日	金融商品取引法等の施行により同法第29条の規定に基づく金融商品取引業者の登録（関東財務局長（金商）第311号）

() 大株主の状況

株主名	住所	所有株数	所有比率
モーニングスター株式会社	東京都港区六本木一丁目6番1号	36,600株	100.00%

2 【投資方針】

(1) 【投資方針】

基本方針

この投資信託はファミリーファンド方式により、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

投資対象

主として、「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）」、「LGM インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）」、「SBIAM インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド（適格機関投資家専用）」（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券（以下「マザーファンド受益証券」といいます。）を主要投資対象とします。

2017年9月6日付で名称変更を行いました。

（旧名称：ロイド・ジョージ インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用））

投資態度

- (1) 主としてマザーファンドを通じてインド及びベトナムの株式（当該株式にかかる預託証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）を含みます。）等に投資するものとします。
- (2) ベトナム株への実質的な投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
- (3) 組入マザーファンドは、委託会社の判断により、適宜、見直しを行います。この場合において、組入対象とされていたマザーファンドは、変更されることがあります。
- (4) 資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模等が運用に支障をきたす水準となったときや、投資対象となるマザーファンドが償還になる等やむを得ない事情が発生した場合には、上記の運用と異なる場合があります。

<ご参考：マザーファンドの投資方針>

ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）

投資対象

- ・ インドの証券取引所で上場または取引されている株式を主要投資対象とします。
- ・ 上記の株式には、上記の株式にかかる預託証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）を含みます。

投資態度

- ・ 株式の投資に際しては、投資対象に掲げる株式の中から、収益性や成長性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資します。
- ・ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ・ 資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。
- ・ SBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。
- ・ 上記の運用の指図に関する権限の委託先は、委託会社の判断により、適宜、見直しを行います。この場合において、運用の指図に関する権限の委託先は、変更されることがあります。

<SBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッド について>

（ 同社はState Bank of India（インドステイト銀行）グループの運用会社であり、委託会社が属するSBIグループの運用会社ではありません。 ）

- ・ インド最大の商業銀行であるState Bank of India（インドステイト銀行）の資本市場事業における一部門として1987年に設立されました。1993年12月にState Bank of Indiaの独立子会社に昇格し、2004年11月にState Bank of IndiaとSociété Générale Asset Management（ソシエテ・ジェネラル・アセットマネジメント）とのジョイント・ベンチャーとして再編されました。2011年5月Société Générale Asset Management S.A（ソシエテジェネラル アセットマネジメント エス エー）からの株式譲渡により現在は、Amundi S.A（アムンディ エス エー）の傘下であるAmundi India Holding（アムンディ インディア ホールディング）とState Bank of Indiaとのジョイント・ベンチャーとなっています。
- ・ 契約資産残高は約1,450億ドル（2019年12月末）。
- ・ インド株投資のスペシャリストとして、評価機関等より数多くの賞を受賞しています。
- ・ 約50人の経験豊富なプロフェッショナルを始めとして、1,000人超のスタッフが在籍しています（2019年12月末）。

LGM インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）

投資対象

- ・ インドの証券取引所で上場または取引されている株式を主要投資対象とします。
- ・ 上記の株式には、上記の株式にかかる預託証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）を含みます。

投資態度

- ・ 株式の投資に際しては、投資対象に掲げる株式の中から、収益性や成長性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資します。
- ・ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

- ・ 資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。
- ・ LGM・インベストメンツ・リミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。
- ・ 上記の運用の指図に関する権限の委託先は、委託会社の判断により、適宜、見直しを行います。この場合において、運用の指図に関する権限の委託先は、変更されることがあります。

<LGM・インベストメンツ・リミテッドについて>

- ・ 1991年にロイド・ジョージ・マネージメントとして設立され、機関投資家を主要顧客とし、香港とロンドンを中心拠点に運用。2011年4月にカナダのBMOフィナンシャル・グループの完全子会社になり、LGM・インベストメンツに社名変更しました。
- ・ 契約資産残高は約53億ドル(2019年12月末)。
- ・ インド及び中国市場への運用に注力しており、同市場のスペシャリストも多数在籍しています。
- ・ 外国人機関投資家として1993年にSEBI(インド証券取引委員会)から初めてFII(外国機関投資家)と認定された会社の一つです。
- ・ 個別企業のボトムアップの長期投資を基にしたアクティブ運用を行っており、インド株投資の専属リサーチチームが年間約200件の企業ミーティングを実施しています。

SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

投資対象

- ・ インドの証券取引所で上場または取引されている株式及び前記の株式にかかる預託証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)を主要投資対象とします。

投資態度

- ・ 株式の投資に際しては、投資対象に掲げる株式の中から、収益性や成長性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資します。
- ・ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ・ 資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。
- ・ 委託会社の判断により、運用の指図に関する権限を他運用会社に委託することがあります。

SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

投資対象

- ・ ベトナムの証券取引所で上場または取引されている株式及び当該株式の値動きに連動する債券を主要投資対象とします。

投資態度

- ・ 銘柄選定に関しては、収益性や成長性及び流動性を勘案し、厳選投資を行います。
- ・ 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ・ ただし、資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。
- ・ 委託会社の判断により、運用の指図に関する権限を他運用会社に委託することがあります。

(2) 【投資対象】

投資の対象とする資産の種類(信託約款第15条)

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)
 - イ. 有価証券
 - ロ. デリバティブ取引にかかる権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款第21条、第22条及び第23条に定めるものに限りません。)
 - ハ. 約束手形(イに掲げるものに該当するものを除きます。)
 - ニ. 金銭債権(イ及びハに掲げるものに該当するものを除きます。)
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
 - イ. 外国有価証券市場において行われる有価証券先物取引と類似の取引にかかる権利
 - ロ. 為替手形

運用の指図範囲等(信託約款第16条第1項)

委託会社は、信託金を主としてSBIアセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三井住友信託銀行株式会社を受託会社として締結された親投資信託である「ステイト・バンク・オブ・インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券(以下「マザーファンド受益証券」といいます。)ならびに次に掲げる有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1. 株券または新株引受権証書
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券(新株引受権証券と社債券)とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。)の新株引受権証券及び短期社債等を除きます。)
6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券(単位未満優先出資証券を含みます。以下同じ。)または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
10. コマーシャル・ペーパー及び短期社債等
11. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。)または新株予約権証券

12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、上記1. から11. までの証券または証書の性質を有するもの
13. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
14. 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
15. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
16. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるとのみに限ります。)
17. 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
19. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
20. 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、1. の証券または証書、12. ならびに17. の証券または証書のうち1. の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2. から6. までの証券及び12. ならびに17. の証券または証書のうち2. から6. までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13. の証券及び14. の証券を以下「投資信託証券」といいます。

金融商品の指図範囲(信託約款第16条第2項)

委託会社は、信託金を、前記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

前記 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときは、委託会社は、信託金を前記 1. から6. に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

(3) 【運用体制】

運用業務方法に関する社内規則に則り、以下のプロセスで運用が行われます。

市場環境分析・企業分析

ファンドマネジャー、アナリスト(5~7名程度)による市場環境、業種、個別企業などの調査・分析及び基本投資戦略の協議・策定を行います。

投資基本方針の策定

最高運用責任者のもとで開催される「運用会議」において、市場動向・投資行動・市場見通し・投資方針等を策定します。

最高運用責任者は、組織規定の運用部門の長とします。

運用基本方針の決定

「運用会議」の策定内容を踏まえ、常勤役員（1～3名）、最高運用責任者、運用部長（1名）及び運用部マネジャーをもって構成される「投資戦略委員会」において、運用の基本方針が決定されます。

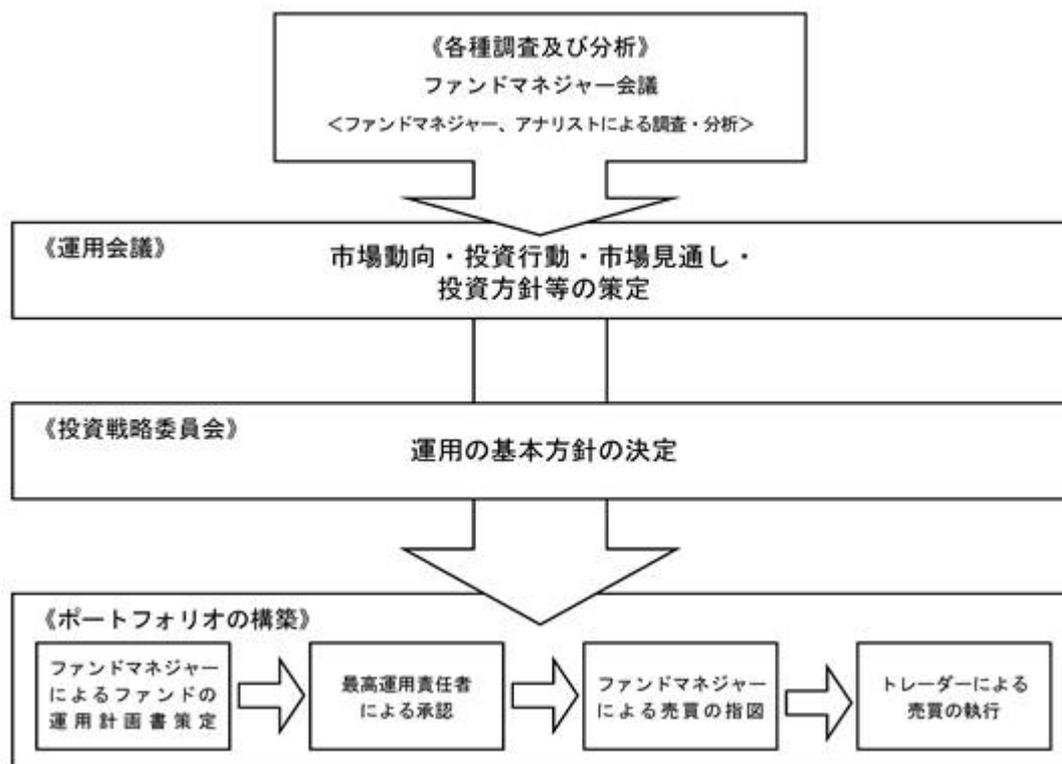
投資銘柄の策定、ポートフォリオの構築

ファンドマネジャーは、この運用の基本方針に沿って、各ファンドの運用計画書を策定し、最高運用責任者の承認後、売買の指図を行います。

ただし、未公開株及び組合への投資を行う場合は、それぞれ「未公開株投資委員会」（6名程度）、「組合投資委員会」（6名程度）での承認後、売買の指図等を行います。

パフォーマンス分析、リスク分析・評価

ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視を行い、運用方針の確認・見直しを行います。



コンプライアンス・オフィサーがファンドに係る意思決定を監督します。

< 受託会社に対する管理体制 >

受託会社（再信託先を含む）に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行い業務遂行状況を確認しています。また、受託会社より内部統制の整備及び運用状況の報告書を受け取っています。

上記体制は、今後、変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

毎決算時(年2回、6月4日及び12月4日。ただし、休業日の場合は翌営業日。)に原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。

分配対象額は、信託財産に属する配当等収益(配当金、利子及びこれらに類する収益から支払利息を控除した額をいいます。以下同じ。)とマザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額(以下「みなし配当収益」といいます。)及び売買益(評価益を含み、みなし配当収益を控除して得た額)との合計額から諸経費等を控除した金額の範囲とします。

委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 信託財産に属する配当等収益とみなし配当等収益との合計額から諸経費、信託報酬及び当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。
2. 売買損益に評価損益を加減して得た額からみなし配当等収益を控除して得た利益金額(以下「売買益」といいます。)は、諸経費、信託報酬及び当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補填した後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。
3. 前記1.におけるみなし配当等収益とは、マザーファンドの信託財産にかかる配当等収益の額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンド受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
4. 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

(5) 【投資制限】

本ファンドは、以下の投資制限にしがいます。

信託約款の「運用の基本方針」に定める投資制限

- () マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。
- () 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
- () 有価証券先物取引等は、信託約款第21条の範囲で行います。
- () スワップ取引は、信託約款第22条の範囲内で行います。
- () 金利先渡取引及び為替先渡取引は、信託約款第23条の範囲内で行います。
- () 一般社団法人投資信託協会規則に定める一者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

信託約款上のその他の投資制限

- () ベトナム株への実質投資割合(運用の基本方針 2. 運用方法(2)投資態度)
ベトナム株への実質的な投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。

() 投資する株式等の範囲(信託約款第19条)

委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券及び新株予約権証券は、証券取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、及び証券取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券及び新株予約権証券についてはこの限りではありません。

上記の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券及び新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができるものとし、

() 信用取引の指図範囲(信託約款第20条)

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けるとの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとし、

上記の指図は、次の1.から6.までに掲げる有価証券の発行会社が発行する株券について行うことができるものとし、かつ次の1.から6.までに掲げる株券数の合計数を超えないものとし、

1. 信託財産に属する株券及び新株引受権証券の権利行使により取得する株券
2. 株式分割により取得する株券
3. 有償増資により取得する株券
4. 売出しにより取得する株券
5. 信託財産に属する転換社債の転換請求及び新株予約権(会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号及び第8号の定めがある新株予約権付社債を含みます。))の新株予約権に限り、)の行使により取得可能な株券
6. 信託財産に属する新株引受権証券及び新株引受権付社債の新株引受権行使、または信託財産に属する新株予約権証券及び新株予約権付社債の新株予約権(上記5.に定めるものを除きます。))の行使により取得可能な株券

() 先物取引等の運用指図、目的及び範囲(信託約款第21条)

委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、わが国の証券取引所における有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。)及び有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。)ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行うことを指図することができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めるものとし、(以下同じ。))。

() スワップ取引の運用指図・目的・範囲(信託約款第22条)

委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、スワップ取引を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとし、ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の合計額が、信託財産の純資産総額を超えないものとし、なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとし、

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

() 金利先渡取引及び為替先渡取引の運用指図及び範囲(信託約款第23条)

委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するためならびに価格変動リスクを回避するため、金利先渡取引及び為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。

金利先渡取引及び為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

金利先渡取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかる金利先渡取引の想定元本の合計額が、保有金利商品の時価総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記時価総額が減少して、金利先渡取引の想定元本の合計額が保有金利商品の時価総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する金利先渡取引の一部の解約を指図するものとします。

為替先渡取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかる為替先渡取引の想定元本の合計額が、保有外貨建資産(外国通貨表示の有価証券(以下「外貨建有価証券」といいます。))、預金、その他の資産をいいます。以下同じ。)の時価総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記の時価総額が減少して、為替先渡取引の想定元本の合計額が保有外貨建資産の時価総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する為替先渡取引の一部の解約を指図するものとします。

金利先渡取引及び為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

委託会社は、金利先渡取引を及び為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

() 有価証券の貸付の指図及び範囲(信託約款第24条)

委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式及び公社債を次の1.及び2.の範囲内で貸付の指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。

上記に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社はすみやかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

() 特別の場合の外貨有価証券への投資制限(信託約款第25条)

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

() 外国為替予約の指図(信託約款第26条)

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。)との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

その他の法令上の投資制限

本ファンドに適用されるその他の法令上の投資制限は以下の通りです。

委託会社は、委託会社が運用の指図を行うすべての投資信託について、信託財産として有する同一法人の発行する株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合には、かかる株式を取得することを受託会社に指図することはできません。(投信法第9条)

その他

資金の借入れ(信託約款第34条)

(イ) 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、ならびに運用の安定性を図るため、信託財産において一部解約の支払資金(一部解約に伴う支払い資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)または再投資にかかる収益分配金の支払資金を目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

(ロ) 前記の資金借入額は、次の1.及び2.に掲げる要件を満たす範囲内の額とします。

1. 一部解約金の支払資金の手当てのために行った有価証券等の売却等による受取りの確定している資金の額の範囲内

2. 借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%以内

(ハ) 前記の借入期間は、有価証券等の売却代金の入金日までに限るものとします。

(ニ) 借入金の利息は、信託財産中より支弁します。

<ご参考：マザーファンドの投資対象、投資制限>

(1) 主な投資対象(全マザーファンド共通)

この信託において投資の対象とする資産の種類は、次の各号に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引にかかる権利(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款に定める「先物取引等」、「スワップ取引」及び「金利先渡取引及び為替先渡取引」ものに限りません。)

ハ. 約束手形(イに掲げるものに該当するものを除きます。)

ニ. 金銭債権(イ及びハに掲げるものに該当するものを除きます。)

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 外国有価証券市場において行われる有価証券先物取引と類似の取引にかかる権利

ロ. 為替手形

委託会社(委託会社から運用の指図に関する権限の委託を受けたものを含みます。)は、信託金を、主として次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1. 株券または新株引受権証書
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。)の新株引受権証券及び短期社債等を除きます。)
6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券(単位未満優先出資証券を含みます。以下同じ。)または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
10. コマーシャル・ペーパー及び短期社債等
11. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。)または新株予約権証券
12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1. から11. までの証券または証書の性質を有するもの
13. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
14. 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
15. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
16. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券にかかるものに限ります。)
17. 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
19. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
20. 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
22. 外国の者に対する権利で上記21. の有価証券の性質を有するもの

なお、前期1. の証券または証書、12. の証券または証書ならびに17. の証書のうち1. の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2. から6. までの証券及び12. の証券または証書ならびに17. の証書のうち2. から6. までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13. の証券及び14. の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、前記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

前記 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときは、委託会社は、信託金を前記 の1. から6. までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

(2) 主な投資制限

「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」信託約款に定める主な投資制限

- () 株式への投資割合には制限を設けません。
- () 外貨建資産への投資には制限を設けません。
- () 投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- () 有価証券先物取引等は、信託約款第19条の範囲内で行います。
- () スワップ取引は、信託約款第20条の範囲内で行います。
- () 金利先渡取引及び為替先渡取引は、信託約款第21条の範囲内で行います。
- () 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」信託約款に定める主な投資制限

- () 株式への投資割合には制限を設けません。
- () 外貨建資産への投資には制限を設けません。
- () 投資信託証券への投資は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。
- () 有価証券先物取引等は、信託約款第18条の範囲内で行います。
- () スワップ取引は、信託約款第19条の範囲内で行います。
- () 金利先渡取引及び為替先渡取引は、信託約款第20条の範囲内で行います。
- () 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

その他の投資制限(各マザーファンド共通)

ベビーファンドにて記載した法令に基づく制限は、各マザーファンドについても課されます。

3 【投資リスク】

本ファンドは、主としてマザーファンドへの投資を通じて、株式などの値動きのある証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としており、元本や一定の投資成果が保証されているものではありません。

以下のリスクは特に記載のない限りマザーファンドについて記載しておりますが、当該リスクは結果的に本ファンドに影響を及ぼします。

特に、本ファンドはマザーファンドへの投資を通じて主に外国株式へ投資を行いますので、組入株式の価格の下落や、組入株式の発行体の財務状態の悪化等の影響により、その信託財産の価値が下落し、結果として本ファンドが損失を被ることがあります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者に帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの主な想定できるリスクは以下の通りです。

- ・ 株価変動リスク

本ファンドは、マザーファンドを通じて主にインド、ベトナムの株式に投資を行います。投資を行う株式の大幅な価格変動等があった場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、大きく損失を被ることがあります。

- ・ 為替変動リスク

マザーファンドは外貨建資産を保有し、マザーファンド及び本ファンドは原則として為替ヘッジを行いませんので、投資対象国や投資対象資産の通貨が対円で円高となった場合には、基準価額は影響を受け、大きく損失を被ることがあります。

- ・ 信用リスク

本ファンドが実質的に投資対象とする企業の経営等に直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。

なお、マザーファンドが投資するベトナムの証券取引所に上場されている株式等の値動きに連動する債券については、債券の発行者に起因するリスクのほか、対象とする企業の株価の影響を受けますので、対象企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合は、当該債券の価値が大きく下落し、本ファンドの基準価額は影響を受け、大きく損失を被ることがあります。

- ・ カントリーリスク

マザーファンドの投資対象株式発行体が所在する国々は、金融市場や政情が不安定であることから、金融市場や政情に起因する諸問題が株価や通貨に及ぼす影響は、先進国より大きいことがあります。また、それらの国々における株式・通貨市場は規模が小さく、流動性が低い場合があり、結果としてそれらの市場で取引される株式・通貨の価格変動が大きくなることがあります。さらに、それらの諸国においては、政府当局が一方向的に規制を導入したり、政策変更を行うことによって証券市場に対し著しく悪影響を与えることがあります。また、証券取引所、会計基準、法規制等に関する制度が先進国市場とは異なる場合があり、運用上予期しない制約を受けることがあります。この場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、大きく損失を被ることがあります。

- ・ 流動性リスク

大量の売買及び市場の外部環境に急激な変化があり市場規模の混乱や縮小があった場合、市場で取引ができず、通常より著しく不利な価格での取引を余儀なくされる可能性があります。この場合、本ファンドの基準価額は影響を受け、大きく損失を被ることがあります。

また、マザーファンドの投資対象株式発行体が所在する国々・地域の取引所においては、長期間にわたる個別銘柄の売買停止措置が取られる場合があり、その様な場合には一般社団法人投資信託協会規則にしたがって、当該有価証券の評価を行います。

- ・ 投資方針の変更について
投資環境の変化及び投資効率等の観点から、投資対象、投資手法、及びマザーファンドの運用の指図に関する権限の委託先の変更を行う場合があります。
- ・ その他のリスク
その他予測不可能な事態(天変地異、クーデター等)が起きたときなど、市場が混乱することが考えられます。この様な場合に、証券取引所の取引停止等やむを得ない事情があるときは、一時的に本ファンド及びマザーファンドが換金できないこともあります。また、これらの事情や有価証券の売買にかかる代金の受渡しに関する障害や、コンピュータ関係の不慮の出来事が発生した場合などには、本ファンド換金代金の支払いが遅延することや、一時的に本ファンド及びマザーファンドの運用方針に基づいた運用が出来なくなるリスクがあります。

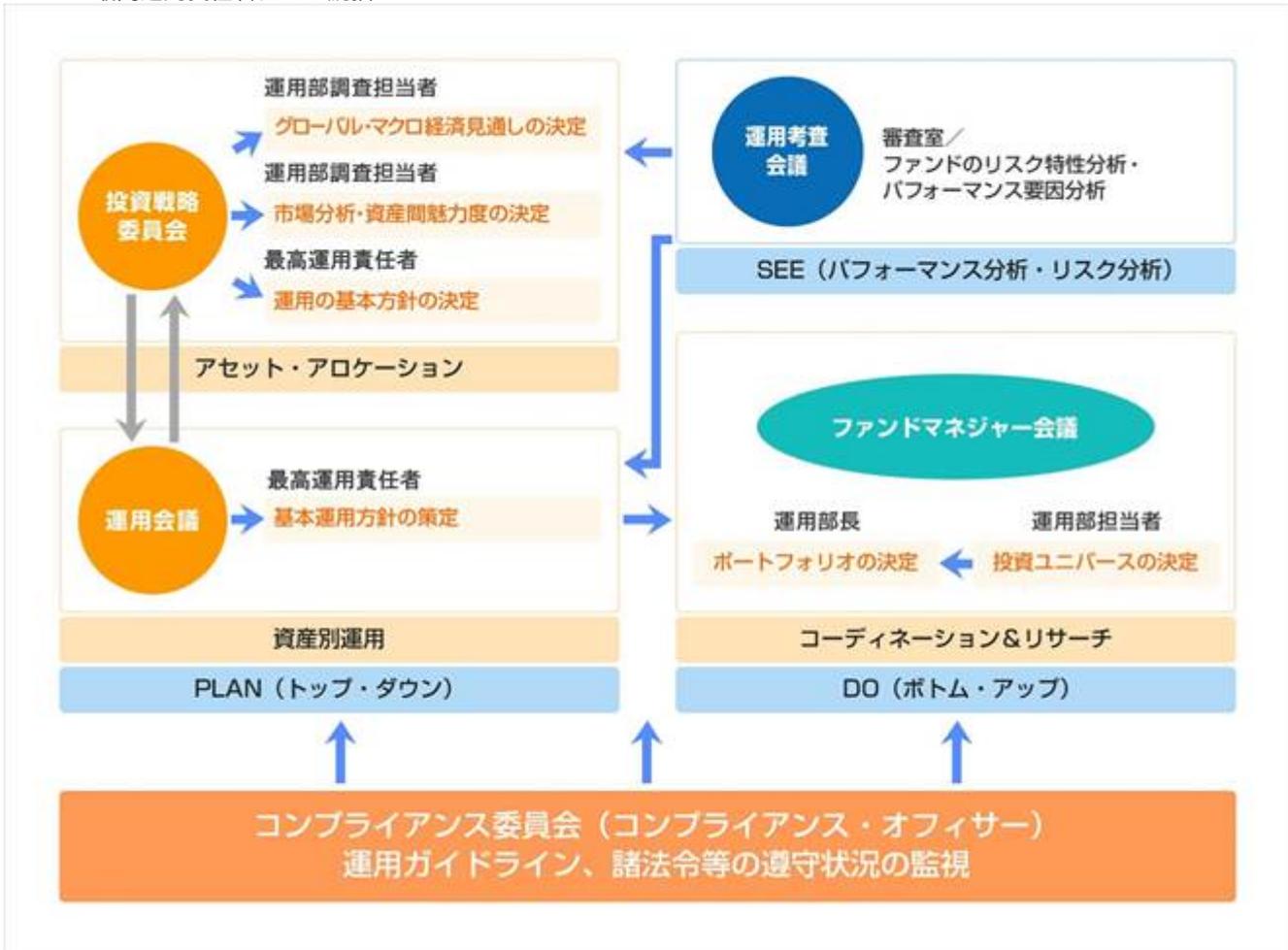
<インド株式における留意点>

- ・ 税制に関する留意点
インド株式への投資部分に対してはインドの税制にしたがって課税されます。インドにおいては非居住者による1年を超えない保有有価証券の売買益に対して15%のキャピタル・ゲイン課税が、さらに当該売却益に対してその他の税(以下、あわせて「キャピタル・ゲイン税等」といいます。)が適用され、キャピタル・ゲイン税等の実効税率は最大で17.94%になります。また、有価証券の売買時に売買代金に対して0.1%の有価証券取引税が適用されます(2019年11月現在)。マザーファンドはインドにおけるキャピタル・ゲイン税等の計算にあたり、現地の税務顧問を使用しますので、当該税務顧問に対する費用が発生します。これらの税金及び費用は信託財産から差し引かれます。
- ・ 非課税利得の帰属について
インドにおいては非居住者による1年を超える保有有価証券の売買益は、キャピタル・ゲイン税等の対象となりません。本ファンドは追加型ですので、マザーファンドが1年を超えて株式を保有し、キャピタル・ゲイン税等を負担しなかった場合の利得(以下「非課税利得」といいます。)は、マザーファンドが株式の売却を行った時点の本ファンドの投資者に帰属し、本ファンドの受益権を1年以上保有している投資者のみに帰属するものではありません。
また、本ファンドの設定後、マザーファンドを投資対象とする他のファンドが設定された場合には、非課税利得は本ファンドの投資者のみに帰属するものではなく、他のファンドの投資者にも帰属することになります。

<その他の留意点>

- ・ 本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・ 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- ・ 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・ 収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・ 本ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。当該運用方式には運用の効率性等の利点がありますが、投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じた場合などには、本ファンドの基準価額は影響を受けることがあります。

<リスク管理体制>
運用に関するリスク管理体制
最高運用責任者による統括



運用者の意思決定方向を調整・相互確認するために、下記の会議を運営します。

会議の名称	頻度	内 容
投資戦略委員会	原則月1回	常勤役員、最高運用責任者、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する。 運用の基本方針、市場見通し、等について協議する。
運用会議	原則月1回	最高運用責任者、運用部及び商品企画部に在籍する者をもって構成する。 市場動向、今月の投資行動、市場見通し、今後の投資方針、等についての情報交換、議論を行う。
運用審査会議	原則月1回	常勤役員、最高運用責任者、審査室長、商品企画部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する。 ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視を行う。
ファンドマネジャー会議	随時	運用担当者及び調査担当者をもって構成する。 個別銘柄の調査報告及び情報交換、ファンドの投資戦略について議論を行う。
未公開株投資委員会	随時	最高運用責任者、運用部長、未公開株運用担当者、未公開株調査担当者及びコンプライアンス・オフィサーをもって構成する。 未公開株式の購入及び売却の決定を行う。
組合投資委員会	随時	最高運用責任者、運用部長、組合運用担当者、組合の投資する資産の調査担当者及びコンプライアンス・オフィサーをもって構成する。 組合への新規投資及び契約変更の決定を行う。
コンプライアンス委員会	原則月1回	常勤役員及びコンプライアンス・オフィサーをもって構成する。 法令等、顧客ガイドライン、社内ルールの遵守状況の報告及び監視を行う。

上記体制は、今後、変更となる場合があります。

コンプライアンス

コンプライアンス委員会において、業務全般にかかる法令諸規則、社内ルール等を遵守していくための諸施策の検討や諸施策の実施状況の報告等が行われています。また、コンプライアンス・オフィサーは、遵守状況の管理・監督を行うとともに、必要に応じて当社の役職員に諸施策の実行を指示します。

機関化回避に関する運営

グループ内取引による機関化を回避するために、グループ企業との各種取引について監査をする外部専門家（弁護士）を選任した上で、自ら率先垂範して運営しています。

(参考情報)

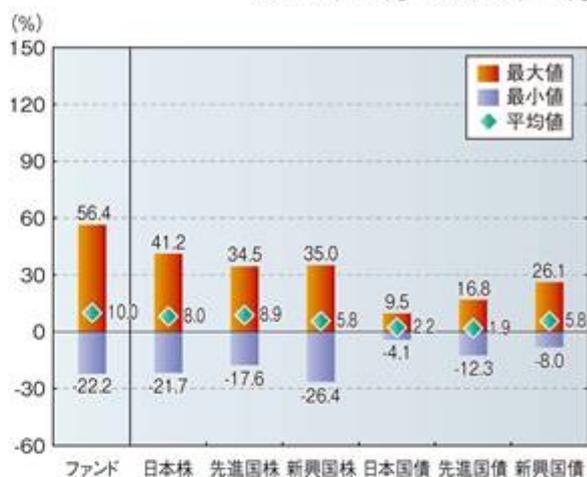
ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移

2014年12月～2019年11月



ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

2014年12月～2019年11月



- * 上記の分配金再投資基準価額及び年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額及び実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- * 「ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較」は、過去5年間の年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- * ファンドの年間騰落率算出において、過去5年間分のデータがない場合は以下のルールに基づき表示しています。
 - ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
 - ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
 - ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示しています。

〈代表的な各資産クラスの指数〉

- 日本株……………Morningstar 日本株式
- 先進国株……………Morningstar 先進国株式(除く日本)
- 新興国株……………Morningstar 新興国株式
- 日本国債……………Morningstar 日本国債
- 先進国債……………Morningstar グローバル国債(除く日本)
- 新興国債……………Morningstar 新興国ソブリン債

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て利子・配当込みのグロス・リターン指数です。

〈各指数の概要〉

- 日本株: Morningstar 日本株式は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株: Morningstar 先進国株式(除く日本)は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株: Morningstar 新興国株式は、Morningstar, Inc.が発表している配当込み株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債: Morningstar 日本国債は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債: Morningstar グローバル国債(除く日本)は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債: Morningstar 新興国ソブリン債は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社(これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います)が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス(以下「Morningstarインデックス」と言います)の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービスマーク並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び/又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害(逸失利益を含む)について、例えばこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、3.3%(税抜3.0%)を上限として販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額とします。

お申込手数料は販売会社により異なる場合がありますので、販売会社にご確認ください。

なお、下記に記載の照会先においてもご確認ください。

*申込手数料には、消費税等が課されます。

(注) 申込手数料とは、購入時の商品説明、情報提供及び事務手続き等にかかる対価のことをいいます。

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社）
 電話番号 03-6229-0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）
 ホームページ <http://www.sbiasset.com.jp/>

(2) 【換金(解約)手数料】

換金（解約）手数料はかかりません。

ただし、換金時に、基準価額から信託財産留保額（当該基準価額に対し0.3%）が差引かれます。

(注) 信託財産留保額とは、換金に伴う有価証券売買委託手数料等の費用のことをいいます。

(3) 【信託報酬等】

ファンドの日々の純資産総額に年2.2%（税抜：年2.0%）を乗じて得た金額とします。

信託報酬は毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。

信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率

< 信託報酬の配分（税抜） >

支払先	料率	役務の内容
委託会社	年1.22%	ファンドの運用、基準価額の算出、ディスクロージャー等の対価
販売会社	年0.70%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理及び事務手続き等の対価
受託会社	年0.08%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価

上記各支払先への料率には、別途消費税等相当額がかかります。

委託会社に対する運用管理費用には、マザーファンドの運用の委託先である「SBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッド」及び「LGM・インベストメンツ・リミテッド」への報酬が含まれていません。

(4) 【その他の手数料等】

本ファンドが負担すべきその他の手数料等には以下のものがあります(ただし、これらに限定されるものではありません。)。これらの費用は発生するたびに、信託財産中から支弁します。

有価証券等の売買委託手数料、先物取引やオプション取引等に要する費用

保管費用等本ファンドの投資に関する費用

借入金の利息、融資枠の設定に要する費用、受託会社等の立替えた立替金の利息

信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用

マザーファンドにおける株式売買にかかるキャピタル・ゲイン税等は、保有有価証券の売却時に発生し、その課税額は期間按分等の調整を行うことなく、税額が確定次第速やかにその全額がマザーファンドに費用計上されます。また、インドで使用したキャピタル・ゲイン税等の計算にかかる税務顧問に関する費用もマザーファンドに費用計上されます。

信託財産にかかる監査費用及び当該監査費用にかかる消費税等に相当する金額は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

その他の手数料等は、監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。

また、当該手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

(5) 【課税上の取扱い】

収益分配時・換金(解約)・償還時に受益者が負担する税金は2019年11月末日現在、以下の通りです。なお、以下の内容は税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

個人の受益者に対する課税

イ．収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は、配当所得として課税され、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%及び地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告による総合課税(配当控除の適用はありません。)もしくは申告分離課税のいずれかを選択することも可能です。

ロ．解約金及び償還金に対する課税

換金(解約)及び償還時の差益(個別元本超過額)は譲渡所得とみなされ、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%及び地方税5%)の税率により、申告分離課税が適用されます。

なお、源泉徴収口座(特定口座)を選択することも可能です。

・少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」、未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA(ジュニアニーサ)」をご利用の場合

公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。NISA及びジュニアNISAをご利用の場合、毎年一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人の投資者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金（解約）及び償還時の差益（個別元本超過額）については配当所得として課税され、15.315%（所得税15%及び復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収が行われます。地方税の源泉徴収はありません。収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）には課税されません。

また、益金不算入制度の適用はありません。

<注1> 個別元本について

受益者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料及び当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込の場合等により把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問い合わせください。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

<注2> 収益分配金の課税について

追加型証券投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際、イ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、ロ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

詳しくは、販売会社または税務署等にお問い合わせください。

税法が改正された場合等には、上記の内容が変更となる場合があります。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家に確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

(2019年11月29日現在)

資産の種類	国名/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
親投資信託受益証券	日本	9,196,310,537	98.33
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		156,595,506	1.67
合計(純資産総額)		9,352,906,043	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

(2019年11月29日現在)

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託 受益証券	ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家 専用)	1,690,968,704	1.6935	2,863,696,025	1.7256	2,917,935,595	31.20
日本	親投資信託 受益証券	LGM インド株・マザーファンド(適格 機関投資家専用)	1,604,106,333	1.7491	2,805,824,668	1.7489	2,805,421,565	30.00
日本	親投資信託 受益証券	SBIAM インド株・マザーファンド (適格機関投資家専用)	1,621,317,868	1.1843	1,920,126,752	1.1890	1,927,746,945	20.61
日本	親投資信託 受益証券	SBIAM ベトナム株・マザーファンド (適格機関投資家専用)	1,401,039,471	1.0545	1,477,436,120	1.1029	1,545,206,432	16.52

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

種類別投資比率

(2019年11月29日現在)

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	98.33
合計	98.33

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

【純資産の推移】

2019年11月29日(直近日)現在、同日前1年以内における各月末ならびに下記計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

年 月 日	純資産総額 (円)		1万口当たり純資産額 (円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第6計算期間末 (2010年 6月 4日)	14,657,723,568	14,657,723,568	6,118	6,118
第7計算期間末 (2010年12月 6日)	14,099,090,805	14,099,090,805	6,245	6,245
第8計算期間末 (2011年 6月 6日)	11,308,195,871	11,308,195,871	5,388	5,388
第9計算期間末 (2011年12月 5日)	8,478,809,129	8,478,809,129	4,308	4,308
第10計算期間末 (2012年 6月 4日)	7,418,360,853	7,418,360,853	3,953	3,953
第11計算期間末 (2012年12月 4日)	8,257,926,743	8,257,926,743	4,758	4,758
第12計算期間末 (2013年 6月 4日)	9,077,553,514	9,077,553,514	5,843	5,843
第13計算期間末 (2013年12月 4日)	8,005,816,129	8,005,816,129	5,823	5,823
第14計算期間末 (2014年 6月 4日)	8,574,894,914	8,574,894,914	6,892	6,892
第15計算期間末 (2014年12月 4日)	10,817,565,372	10,817,565,372	8,929	8,929
第16計算期間末 (2015年 6月 4日)	10,390,307,829	10,390,307,829	8,824	8,824
第17計算期間末 (2015年12月 4日)	9,203,146,260	9,203,146,260	8,584	8,584
第18計算期間末 (2016年 6月 6日)	8,317,617,475	8,317,617,475	7,901	7,901
第19計算期間末 (2016年12月 5日)	8,608,981,871	8,608,981,871	8,336	8,336
第20計算期間末 (2017年 6月 5日)	9,799,283,835	9,799,283,835	9,887	9,887
第21計算期間末 (2017年12月 4日)	10,372,762,863	10,372,762,863	11,182	11,182
第22計算期間末 (2018年 6月 4日)	10,233,771,897	10,233,771,897	10,963	10,963
第23計算期間末 (2018年12月 4日)	9,641,302,605	9,641,302,605	10,592	10,592
第24計算期間末 (2019年 6月 4日)	9,332,658,689	9,332,658,689	10,617	10,617
2018年11月末日	9,631,706,331		10,588	
12月末日	9,255,031,731		10,259	
2019年 1月末日	8,891,033,631		9,873	
2月末日	9,163,147,357		10,167	
3月末日	9,696,826,767		10,882	
4月末日	9,526,750,723		10,884	
5月末日	9,359,091,428		10,641	
6月末日	9,222,558,711		10,443	
7月末日	9,001,997,729		10,153	
8月末日	8,526,795,878		9,610	
9月末日	9,273,436,187		10,400	
10月末日	9,470,412,572		10,645	
11月末日	9,352,906,043		10,648	

(注)表中の末日とはその月の最終営業日を指します。

【分配の推移】

期 間	計算期間	1万口当たりの分配金（円）
第6計算期間	2009年12月 5日～2010年 6月 4日	0
第7計算期間	2010年 6月 5日～2010年12月 6日	0
第8計算期間	2010年12月 7日～2011年 6月 6日	0
第9計算期間	2011年 6月 7日～2011年12月 5日	0
第10計算期間	2011年12月 6日～2012年 6月 4日	0
第11計算期間	2012年 6月 5日～2012年12月 4日	0
第12計算期間	2012年12月 5日～2013年 6月 4日	0
第13計算期間	2013年 6月 5日～2013年12月 4日	0
第14計算期間	2013年12月 5日～2014年 6月 4日	0
第15計算期間	2014年 6月 5日～2014年12月 4日	0
第16計算期間	2014年12月 5日～2015年 6月 4日	0
第17計算期間	2015年 6月 5日～2015年12月 4日	0
第18計算期間	2015年12月 5日～2016年 6月 6日	0
第19計算期間	2016年 6月 7日～2016年12月 5日	0
第20計算期間	2016年12月 6日～2017年 6月 5日	0
第21計算期間	2017年 6月 6日～2017年12月 4日	0
第22計算期間	2017年12月 5日～2018年 6月 4日	0
第23計算期間	2018年 6月 5日～2018年12月 4日	0
第24計算期間	2018年12月 5日～2019年 6月 4日	0

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率（％）
第6計算期間	2009年12月 5日～2010年 6月 4日	2.34
第7計算期間	2010年 6月 5日～2010年12月 6日	2.08
第8計算期間	2010年12月 7日～2011年 6月 6日	13.72
第9計算期間	2011年 6月 7日～2011年12月 5日	20.04
第10計算期間	2011年12月 6日～2012年 6月 4日	8.24
第11計算期間	2012年 6月 5日～2012年12月 4日	20.36
第12計算期間	2012年12月 5日～2013年 6月 4日	22.80
第13計算期間	2013年 6月 5日～2013年12月 4日	0.34
第14計算期間	2013年12月 5日～2014年 6月 4日	18.36
第15計算期間	2014年 6月 5日～2014年12月 4日	29.56
第16計算期間	2014年12月 5日～2015年 6月 4日	1.18
第17計算期間	2015年 6月 5日～2015年12月 4日	2.72
第18計算期間	2015年12月 5日～2016年 6月 6日	7.96
第19計算期間	2016年 6月 7日～2016年12月 5日	5.51
第20計算期間	2016年12月 6日～2017年 6月 5日	18.61
第21計算期間	2017年 6月 6日～2017年12月 4日	13.10
第22計算期間	2017年12月 5日～2018年 6月 4日	1.96
第23計算期間	2018年 6月 5日～2018年12月 4日	3.38
第24計算期間	2018年12月 5日～2019年 6月 4日	0.24

(注) 各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配落ち）に当該計算期間の分配金を加算し、当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落ち。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数を記載しております。

(4)【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定数量 (口)	解約数量 (口)	発行済み数量 (口)
第6計算期間	2009年12月 5日～2010年 6月 4日	256,517,544	1,330,234,755	23,956,646,931
第7計算期間	2010年 6月 5日～2010年12月 6日	138,986,676	1,518,831,690	22,576,801,917
第8計算期間	2010年12月 7日～2011年 6月 6日	143,612,876	1,732,380,018	20,988,034,775
第9計算期間	2011年 6月 7日～2011年12月 5日	109,591,091	1,415,215,300	19,682,410,566
第10計算期間	2011年12月 6日～2012年 6月 4日	181,622,443	1,098,324,986	18,765,708,023
第11計算期間	2012年 6月 5日～2012年12月 4日	86,069,440	1,496,256,095	17,355,521,368
第12計算期間	2012年12月 5日～2013年 6月 4日	255,554,607	2,075,167,401	15,535,908,574
第13計算期間	2013年 6月 5日～2013年12月 4日	112,228,299	1,898,688,668	13,749,448,205
第14計算期間	2013年12月 5日～2014年 6月 4日	200,531,553	1,508,039,025	12,441,940,733
第15計算期間	2014年 6月 5日～2014年12月 4日	1,279,930,042	1,607,235,082	12,114,635,693
第16計算期間	2014年12月 5日～2015年 6月 4日	1,738,643,900	2,078,256,126	11,775,023,467
第17計算期間	2015年 6月 5日～2015年12月 4日	631,842,837	1,685,631,026	10,721,235,278
第18計算期間	2015年12月 5日～2016年 6月 6日	365,528,517	559,980,379	10,526,783,416
第19計算期間	2016年 6月 7日～2016年12月 5日	445,847,865	644,779,832	10,327,851,449
第20計算期間	2016年12月 6日～2017年 6月 5日	762,633,125	1,179,565,733	9,910,918,841
第21計算期間	2017年 6月 6日～2017年12月 4日	1,451,482,938	2,086,122,470	9,276,279,309
第22計算期間	2017年12月 5日～2018年 6月 4日	1,310,152,957	1,251,382,876	9,335,049,390
第23計算期間	2018年 6月 5日～2018年12月 4日	648,827,294	881,616,640	9,102,260,044
第24計算期間	2018年12月 5日～2019年 6月 4日	571,988,947	884,065,242	8,790,183,749

(注)本邦外における設定及び解約の実績はありません。

(参考)

LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

投資状況

(2019年11月29日現在)

資産の種類	国名/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	インド	2,690,106,239	95.89
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		115,249,992	4.11
合計(純資産総額)		2,805,356,231	100.00

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(2019年11月29日現在)

国/ 地域	種 類	銘 柄 名	業 種	数 量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
インド	株式	HDFC BANK LIMITED	銀行	106,398	1,891.96	201,301,505	1,948.56	207,323,100	7.39
インド	株式	ICICI BANK LTD	銀行	223,475	651.26	145,541,669	799.49	178,666,251	6.37
インド	株式	KOTAK MAHINDRA BANK LTD	銀行	62,990	2,358.12	148,538,294	2,487.10	156,662,429	5.58
インド	株式	BAJAJ FINANCE LIMITED	各種金融	23,375	5,407.01	126,389,022	6,317.15	147,663,545	5.26
インド	株式	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	銀行	40,532	3,434.89	139,223,083	3,557.01	144,172,932	5.14
インド	株式	COLGATE-PALMOLIVE (INDIA)	家庭用品・ パーソナル用品	53,898	1,799.95	97,013,813	2,274.19	122,574,562	4.37
インド	株式	NESTLE INDIA LIMITED	食品・飲料・タバコ	5,424	18,004.98	97,659,050	22,581.17	122,480,288	4.37
インド	株式	BAJAJ AUTO LIMITED	自動車・自動車部品	23,400	4,673.28	109,354,845	4,922.45	115,185,470	4.11
インド	株式	UNITED SPIRITS LIMITED	食品・飲料・タバコ	119,980	871.04	104,507,711	931.23	111,729,935	3.98
インド	株式	DELTA CORP LTD	消費者サービス	328,515	314.02	103,163,168	337.64	110,921,447	3.95
インド	株式	TITAN COMPANY LTD	耐久消費財・アパレル	60,375	1,950.02	117,732,759	1,801.02	108,737,186	3.88
インド	株式	ITC LTD	食品・飲料・タバコ	279,063	428.96	119,708,818	379.76	105,978,081	3.78
インド	株式	HINDUSTAN UNILEVER LIMITED	家庭用品・ パーソナル用品	30,944	2,833.13	87,668,622	3,214.21	99,460,545	3.55
インド	株式	PIDILITE INDUSTRIES LTD	素材	47,886	1,995.37	95,550,671	2,018.32	96,649,463	3.45
インド	株式	CONTAINER CORP OF INDIA LTD	運輸	111,130	817.58	90,858,333	851.38	94,614,860	3.37
インド	株式	BRITANNIA INDUSTRIES LTD	食品・飲料・タバコ	19,748	4,530.63	89,470,956	4,771.30	94,223,731	3.36
インド	株式	SHRIRAM CITY UNION FINANCE LTD	各種金融	45,035	2,386.84	107,491,610	2,032.80	91,547,148	3.26
インド	株式	MARUTI SUZUKI INDIA LTD	自動車・自動車部品	7,803	10,830.20	84,508,082	11,177.78	87,220,233	3.11
インド	株式	WONDERLA HOLIDAYS LTD	消費者サービス	165,696	478.16	79,230,856	392.16	64,979,509	2.32
インド	株式	JYOTHY LABS LIMITED	家庭用品・ パーソナル用品	226,450	261.72	59,267,173	275.58	62,405,770	2.22
インド	株式	BAJAJ CONSUMER CARE LTD	家庭用品・ パーソナル用品	162,193	521.05	84,512,123	377.37	61,207,908	2.18
インド	株式	INDUSIND BANK LTD	銀行	23,459	2,560.48	60,066,324	2,415.10	56,655,948	2.02
インド	株式	CARE RATINGS LIMITED	各種金融	76,756	1,342.23	103,024,960	737.04	56,572,549	2.02
インド	株式	EMAMI LTD	家庭用品・ パーソナル用品	111,726	537.99	60,108,476	486.48	54,353,135	1.94
インド	株式	SHREE CEMENT LIMITED	素材	1,603	33,684.11	53,995,632	32,673.48	52,375,600	1.87
インド	株式	MAHARASHTRA SCOOTERS LTD	自動車・自動車部品	4,615	6,718.55	31,006,145	7,357.50	33,954,881	1.21
インド	株式	ESCORTS LTD	資本財	27,882	932.85	26,009,863	992.45	27,671,575	0.99
インド	株式	TATA CONSULTANCY SVS LTD	ソフトウェア・ サービス	7,539	3,334.64	25,139,895	3,199.11	24,118,158	0.86

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

種類別・業種別構成比率

(2019年11月29日現在)

種類	業種	投資比率(%)
株式	素材	5.31
	資本財	0.99
	運輸	3.37
	自動車・自動車部品	8.43
	耐久消費財・アパレル	3.88
	消費者サービス	6.27
	食品・飲料・タバコ	15.49
	家庭用品・パーソナル用品	14.26
	銀行	26.50
	各種金融	10.54
	ソフトウェア・サービス	0.86
合計		95.89

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

ステイト・バンク・オブ・インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

投資状況

(2019年11月29日現在)

資産の種類	国名/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	インド	3,150,114,505	96.90
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		100,945,254	3.10
合計(純資産総額)		3,251,059,759	100.00

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(2019年11月29日現在)

国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
インド	株式	RELIANCE INDUSTRIES LIMITED	エネルギー	94,000	2,091.78	196,627,508	2,433.12	228,713,562	7.04
インド	株式	ICICI BANK LTD	銀行	244,400	651.26	159,169,410	799.49	195,395,600	6.01
インド	株式	INFOSYS LIMITED	ソフトウェア・サービス	180,378	1,146.76	206,850,455	1,080.54	194,905,824	6.00
インド	株式	AXIS BANK LIMITED	銀行	167,900	1,251.48	210,123,660	1,155.92	194,079,640	5.97
インド	株式	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	銀行	42,000	3,434.89	144,265,506	3,557.01	149,394,630	4.60
インド	株式	TATA CONSULTANCY SVS LTD	ソフトウェア・サービス	39,946	3,450.13	137,819,253	3,199.11	127,792,008	3.93
インド	株式	STATE BANK OF INDIA	銀行	237,000	547.39	129,732,141	537.92	127,487,514	3.92
インド	株式	MARUTI SUZUKI INDIA LTD	自動車・自動車部品	10,500	10,628.12	111,595,360	11,177.78	117,366,711	3.61
インド	株式	BHARTI AIRTEL LIMITED	電気通信サービス	167,947	543.23	91,234,689	672.44	112,934,449	3.47
インド	株式	SHREE CEMENT LIMITED	素材	2,250	33,684.11	75,789,252	32,673.48	73,515,346	2.26
インド	株式	JK CEMENT LTD	素材	37,171	1,616.38	60,082,609	1,778.16	66,096,022	2.03
インド	株式	DR. REDDY'S LABORATORIES	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	13,600	4,187.10	56,944,642	4,584.58	62,350,288	1.92
インド	株式	COLGATE-PALMOLIVE (INDIA)	家庭用品・パーソナル用品	25,900	1,799.95	46,618,756	2,274.19	58,901,650	1.81
インド	株式	HERO MOTOCORP LTD	自動車・自動車部品	14,000	4,260.26	59,643,677	3,798.10	53,173,428	1.64
インド	株式	KOTAK MAHINDRA BANK LTD	銀行	21,100	2,358.12	49,756,437	2,487.10	52,477,810	1.61
インド	株式	TIMKEN INDIA LIMITED	資本財	40,000	1,065.44	42,617,960	1,311.69	52,467,800	1.61
インド	株式	HDFC BANK LIMITED	銀行	25,596	1,891.96	48,426,787	1,948.56	49,875,393	1.53
インド	株式	ULTRATECH CEMENT LTD	素材	7,200	7,345.49	52,887,543	6,609.98	47,591,914	1.46
インド	株式	MULTI COMMODITY EXCH INDIA	各種金融	26,000	1,265.18	32,894,862	1,796.17	46,700,654	1.44
インド	株式	SKF INDIA LTD	資本財	14,101	2,916.52	41,125,976	3,282.04	46,280,159	1.42
インド	株式	MARICO LTD	家庭用品・パーソナル用品	81,000	581.27	47,083,113	556.17	45,049,851	1.39
インド	株式	LUPIN LTD	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	36,000	1,147.68	41,316,660	1,238.69	44,593,164	1.37
インド	株式	GREAT EASTERN SHIPPING CO	エネルギー	90,536	432.58	39,164,606	488.41	44,218,778	1.36
インド	株式	MAHINDRA & MAHINDRA FINANCIAL SERVICES LTD	各種金融	80,200	670.59	53,781,559	548.39	43,981,199	1.35
インド	株式	AU SMALL FINANCE BANK LIMITED	銀行	34,000	1,072.37	36,460,886	1,245.55	42,348,768	1.30
インド	株式	ABB LTD INDIA	資本財	19,000	2,453.75	46,621,421	2,228.38	42,339,220	1.30
インド	株式	HDFC ASSET MANAGEMENT CO LTD	各種金融	6,900	2,747.74	18,959,440	5,637.24	38,897,004	1.20
インド	株式	STAR CEMENT LTD	素材	269,044	187.57	50,465,122	143.60	38,636,064	1.19
インド	株式	THERMAX LIMITED	資本財	24,589	1,559.94	38,357,438	1,542.07	37,918,180	1.17
インド	株式	ASHOK LEYLAND LIMITED	自動車・自動車部品	300,000	97.07	29,122,955	125.43	37,629,900	1.16

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

種類別・業種別構成比率

(2019年11月29日現在)

種類	業種	投資比率(%)
株式	エネルギー	8.95
	素材	10.68
	資本財	9.29
	商業・専門サービス	0.88
	自動車・自動車部品	8.50
	耐久消費財・アパレル	0.69
	消費者サービス	2.86
	家庭用品・パーソナル用品	3.20
	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	3.29
	銀行	24.95
	各種金融	6.12
	保険	1.05
	不動産	3.04
	ソフトウェア・サービス	9.93
	電気通信サービス	3.47
合計		96.90

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

投資状況

(2019年11月29日現在)

資産の種類	国名/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	インド	1,908,599,385	99.01
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		19,126,860	0.99
合計(純資産総額)		1,927,726,245	100.00

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(2019年11月29日現在)

国/ 地域	種 類	銘 柄 名	業 種	数 量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
インド	株式	RELIANCE INDUSTRIES LIMITED	エネルギー	71,740	2,091.78	150,064,441	2,433.12	174,552,244	9.05
インド	株式	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	銀行	48,799	3,439.48	167,843,292	3,557.01	173,578,775	9.00
インド	株式	HDFC BANK LIMITED	銀行	88,084	1,891.50	166,611,326	1,948.56	171,637,135	8.90
インド	株式	ICICI BANK LTD	銀行	210,998	652.31	137,636,780	799.49	168,691,002	8.75
インド	株式	INFOSYS LIMITED	ソフトウェア・サービス	119,828	1,154.76	138,372,987	1,080.54	129,479,067	6.72
インド	株式	TATA CONSULTANCY SVS LTD	ソフトウェア・サービス	35,199	3,416.93	120,272,752	3,199.11	112,605,790	5.84
インド	株式	ITC LTD	食品・飲料・タバコ	285,026	426.85	121,665,400	379.76	108,242,614	5.62
インド	株式	KOTAK MAHINDRA BANK LTD	銀行	38,746	2,354.25	91,218,143	2,487.10	96,365,177	5.00
インド	株式	LARSEN & TOUBRO LIMITED	資本財	39,324	2,371.35	93,251,109	2,078.76	81,745,512	4.24
インド	株式	HINDUSTAN UNILEVER LIMITED	家庭用品・パーソナル用品	23,901	2,802.01	66,970,951	3,214.21	76,822,857	3.99
インド	株式	AXIS BANK LIMITED	銀行	59,447	1,236.29	73,494,124	1,155.92	68,716,214	3.56
インド	株式	STATE BANK OF INDIA	銀行	120,128	550.85	66,173,470	537.92	64,619,494	3.35
インド	株式	MARUTI SUZUKI INDIA LTD	自動車・自動車部品	4,471	10,578.69	47,297,328	11,177.78	49,975,863	2.59
インド	株式	BAJAJ FINANCE LIMITED	各種金融	7,734	5,396.43	41,736,045	6,317.15	48,856,892	2.53
インド	株式	INDUSIND BANK LTD	銀行	17,918	2,497.83	44,756,274	2,415.10	43,273,851	2.24
インド	株式	ASIAN PAINTS LTD	素材	14,688	2,228.47	32,731,803	2,640.48	38,783,429	2.01
インド	株式	BHARTI AIRTEL LIMITED	電気通信サービス	57,103	543.48	31,034,418	672.44	38,398,398	1.99
インド	株式	HCL TECHNOLOGIES LTD	ソフトウェア・サービス	18,212	1,695.63	30,880,858	1,744.28	31,766,846	1.65
インド	株式	MAHINDRA&MAHINDRA LIMITED	自動車・自動車部品	30,708	997.67	30,636,561	833.98	25,610,073	1.33
インド	株式	SUN PHARMACEUTICAL INDUSTRIES	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	34,747	645.61	22,433,133	704.31	24,472,972	1.27
インド	株式	TECH MAHINDRA LTD	ソフトウェア・サービス	20,652	1,051.32	21,712,009	1,180.02	24,369,876	1.26
インド	株式	POWER GRID CORPORATION OF INDIA LTD	公益事業	77,570	303.56	23,547,521	302.07	23,431,647	1.22
インド	株式	NTPC LIMITED	公益事業	127,043	204.61	25,995,513	177.94	22,606,921	1.17
インド	株式	BAJAJ AUTO LIMITED	自動車・自動車部品	4,287	4,580.99	19,638,712	4,922.45	21,102,569	1.09
インド	株式	OIL & NATURAL GAS CORPORATION LTD	エネルギー	92,998	259.82	24,163,559	205.05	19,069,333	0.99
インド	株式	TATA STEEL LIMITED	素材	24,555	760.65	18,677,815	665.43	16,339,732	0.85
インド	株式	HERO MOTOCORP LTD	自動車・自動車部品	4,273	4,281.30	18,294,028	3,798.10	16,229,290	0.84
インド	株式	TATA MOTORS LTD	自動車・自動車部品	59,405	267.21	15,873,947	253.79	15,076,514	0.78
インド	株式	VEDANTA LTD	素材	61,259	254.45	15,587,610	226.99	13,905,548	0.72
インド	株式	YES BANK LIMITED	銀行	60,454	216.35	13,079,326	107.87	6,521,596	0.34

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

種類別・業種別構成比率

(2019年11月29日現在)

種類	業種	投資比率(%)
株式	エネルギー	10.04
	素材	3.58
	資本財	4.24
	自動車・自動車部品	6.73
	食品・飲料・タバコ	5.62
	家庭用品・パーソナル用品	3.99
	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.27
	銀行	41.16
	各種金融	2.53
	ソフトウェア・サービス	15.47
	電気通信サービス	1.99
	公益事業	2.39
合計		99.01

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

投資状況

(2019年11月29日現在)

資産の種類	国名/地域	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	ベトナム	1,485,524,158	96.14
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		59,696,322	3.86
合計(純資産総額)		1,545,220,480	100.00

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資資産

投資有価証券の主要銘柄

(2019年11月29日現在)

国/ 地域	種 類	銘 柄 名	業 種	数 量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
ベトナム	株式	VIETJET AVIATION JSC	運輸	208,392	626.29	130,515,097	679.61	141,627,371	9.17
ベトナム	株式	BANK FOR FOREIGN TRADE JSC	銀行	349,000	312.55	109,079,950	400.91	139,917,590	9.05
ベトナム	株式	VINGROUP JSC	不動産	242,752	538.15	130,636,989	543.78	132,006,110	8.54
ベトナム	株式	VIETNAM DAIRY PRODUCTS JSC	食品・飲料・タバコ	227,506	601.59	136,867,609	573.86	130,558,868	8.45
ベトナム	株式	SAIGON BEER ALCOHOL BEVERAGE	食品・飲料・タバコ	97,500	1,270.17	123,841,710	1,081.00	105,397,500	6.82
ベトナム	株式	VINHOMES JSC	不動産	238,775	378.82	90,452,746	430.52	102,797,413	6.65
ベトナム	株式	PETROVIETNAM GAS JOINT STOCK	公益事業	213,100	476.58	101,559,198	473.76	100,958,256	6.53
ベトナム	株式	VIETNAM JS COMMERCIAL BANK FOR INDUSTRY AND TRADE	銀行	937,380	102.56	96,145,993	96.11	90,096,279	5.83
ベトナム	株式	AIRPORTS CORP OF VIETNAM JSC	運輸	254,900	380.70	97,040,430	351.09	89,492,841	5.79
ベトナム	株式	BANK FOR INVESTMENT AND DEVE	銀行	376,690	143.82	54,175,556	191.05	71,968,508	4.66
ベトナム	株式	MASAN GROUP CORP	食品・飲料・タバコ	167,340	399.50	66,852,330	326.65	54,661,611	3.54
ベトナム	株式	VIETNAM NATIONAL PETROLEUM G	エネルギー	183,110	288.10	52,755,822	272.60	49,915,786	3.23
ベトナム	株式	VINCOM RETAIL JSC	不動産	254,812	158.85	40,479,434	157.44	40,120,149	2.60
ベトナム	株式	HOA PHAT GROUP JSC	素材	370,861	113.88	42,235,408	106.21	39,392,855	2.55
ベトナム	株式	VIETNAM PROSPERITY JSC BANK	銀行	365,735	89.48	32,726,077	94.23	34,465,038	2.23
ベトナム	株式	BAO VIET HOLDINGS	保険	100,110	363.30	36,370,964	329.47	32,983,242	2.13
ベトナム	株式	NO VA LAND INVESTMENT GROUP	不動産	112,987	282.00	31,862,334	266.49	30,109,906	1.95
ベトナム	株式	MILITARY COMMERCIAL JOINT	銀行	265,765	88.56	23,536,226	103.87	27,605,011	1.79
ベトナム	株式	FPT CORP	テクノロジー・ハード ウェアおよび機器	103,736	219.91	22,813,411	263.19	27,303,315	1.77
ベトナム	株式	VIETNAM TECHNOLOGICAL & COMM	銀行	150,000	101.82	15,273,790	107.63	16,144,500	1.04
ベトナム	株式	HANOI BEER ALCOHOL & BEVERAG	食品・飲料・タバコ	32,240	465.30	15,001,272	368.47	11,879,795	0.77
ベトナム	株式	FLC FAROS CONSTRUCTION JSC	建設	78,204	140.05	10,953,252	116.79	9,133,836	0.59
ベトナム	株式	HDBANK	銀行	56,860	125.72	7,148,723	122.90	6,988,378	0.45

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

種類別・業種別構成比率

(2019年11月29日現在)

種類	業種	投資比率(%)
株式	建設	0.59
	エネルギー	3.23
	素材	2.55
	運輸	14.96
	食品・飲料・タバコ	19.58
	銀行	25.06
	保険	2.13
	不動産	19.74
	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.77
	公益事業	6.53
合計		96.14

(注)投資比率とは、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(参考情報)

運用実績

基準価額・純資産の推移

(基準日:2019年11月29日)

(2009年11月末～2019年11月29日)

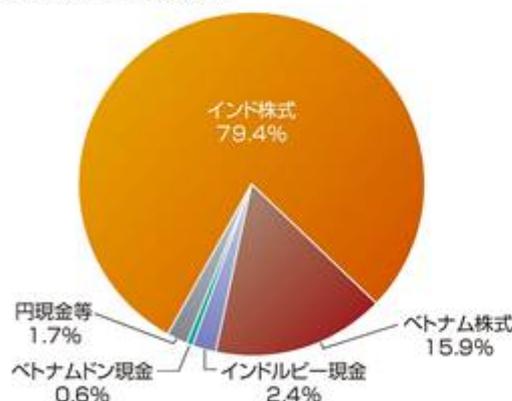


分配の推移（1万口当たり、税引前）

決算期	第20期 2017年6月5日	第21期 2017年12月4日	第22期 2018年6月4日	第23期 2018年12月4日	第24期 2019年6月4日	設定来累計
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	800円

主要な資産の状況

《実質組入れの状況》



本ファンドが実質的に組入れている資産の状況です。

※比率は表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
 ※比率は本ファンドの純資産総額に対する比率です。

《組入資産の構成比》

資産の種類	比率
ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド	31.20%
LGM インド株・マザーファンド	30.00%
SBIAM インド株・マザーファンド	20.61%
SBIAM ベトナム株・マザーファンド	16.52%

最新の運用実績は、委託会社のホームページまたは販売会社でご確認いただけます。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

運用実績

(基準日:2019年11月29日)

《組入上位銘柄》

※各マザーファンドの純資産総額に対する比率です。

◎ステイト・バンク・オブ・インド株・マザーファンド			◎SBIAM インド株・マザーファンド		
銘柄名	業種	比率	銘柄名	業種	比率
1 リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	7.04%	1 リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	9.05%
2 ICICI銀行	銀行	6.01%	2 HDFC	銀行	9.00%
3 インフォシス	ソフトウェア・サービス	6.00%	3 HDFC銀行	銀行	8.90%
4 アクシス銀行	銀行	5.97%	4 ICICI銀行	銀行	8.75%
5 HDFC	銀行	4.60%	5 インフォシス	ソフトウェア・サービス	6.72%
6 タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	3.93%	6 タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	5.84%
7 インドステイト銀行	銀行	3.92%	7 ITC	食品・飲料・タバコ	5.62%
8 マルチ・スズキ・インド	自動車・自動車部品	3.61%	8 コタック・マヒンドラ銀行	銀行	5.00%
9 プハルティ・エアテル	電気通信サービス	3.47%	9 ラーセン&トップロ	資本財	4.24%
10 シュリーセメント	素材	2.26%	10 ヒンドゥスタン・ユニリーバ	家庭用品・パーソナル用品	3.99%

◎LGM インド株・マザーファンド			◎SBIAM ベトナム株・マザーファンド		
銘柄名	業種	比率	銘柄名	業種	比率
1 HDFC銀行	銀行	7.39%	1 ベトジェットエア	運輸	9.17%
2 ICICI銀行	銀行	6.37%	2 ベトコムバンク	銀行	9.05%
3 コタック・マヒンドラ銀行	銀行	5.58%	3 ビングループ	不動産	8.54%
4 バジャジ・ファイナンス	各種金融	5.26%	4 ベトナム乳業	食品・飲料・タバコ	8.45%
5 HDFC	銀行	5.14%	5 サイゴンビール・アルコール	食品・飲料・タバコ	6.82%
6 コルゲート・パルモリーブ	家庭用品・パーソナル用品	4.37%	6 ビンホームズ	不動産	6.65%
7 ネスレ・インド	食品・飲料・タバコ	4.37%	7 ベトロベトナムガス	公益事業	6.53%
8 バジャジ・オート	自動車・自動車部品	4.11%	8 ベトインバンク	銀行	5.83%
9 ユナイテッド・スピリッツ	食品・飲料・タバコ	3.98%	9 ベトナム航空総会社	運輸	5.79%
10 デルタ	消費者サービス	3.95%	10 ベトナム投資開発銀行	銀行	4.66%

※HDFC銀行はHDFCのグループ企業です。

年間収益率の推移（暦年ベース）

本ファンドにはベンチマークはありません。



※ファンドの年間収益率は決算時の分配金を非課税で再投資したものと計算しています。

※2019年は11月末までの騰落率です。

最新の運用実績は、委託会社のホームページまたは販売会社でご確認いただけます。

※ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

第2 【管理及び運営】

1 【申込（販売）手続等】

()お申込日

毎営業日お申込いただけます。

原則として、営業日の午後3時までとなります。

上記時間を過ぎての受付は、翌営業日の取扱いとなります。

ただし、次のいずれかに該当する場合は、購入のお申込みの受付を行いません。

- ・インド、ベトナムの証券取引所休業日
- ・インド、ベトナムの銀行休業日

なお、下記照会先においてもご確認ください。

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社）

電話番号 03-6229-0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <http://www.sbi-am.co.jp/>

()お申込単位

・分配金の受取方法により、お申込には2つの方法があります。（販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります）

・お申込単位は、各販売会社が定めるものとします。（当初1口＝1円）

分配金受取コース

分配金再投資コース

なお、前記（ ）に記載の照会先においてもご確認ください。

()お申込価額

取得申込受付日の翌営業日に算出される基準価額となります。

()お申込手数料

取得申込受付日の翌営業日の基準価額に、3.3%（税抜3.0%）を上限として販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額とします。

お申込手数料は販売会社によって異なる場合がありますので、販売会社にご確認ください。

なお、前記（ ）の照会先においてもご確認ください。

*申込手数料には、消費税等が課されます。

（注）申込手数料とは、購入時の商品説明、情報提供及び事務手続き等に係る対価のことをいいます。

本ファンドの受益権は、振替制度の適用を受けており、取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。

委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行います。

なお、本ファンドは、上記にしたがい受託会社にお申込代金が払い込まれた時点で初めて設定がなされ、取得申込者はそれより前の時点では受益権を取得できません。

上記にかかわらず、証券取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情(コンピュータの誤作動等により決済が不能となった場合等を含みます。)があると委託会社が判断したときは、受益権の取得のお申込の受付を中止すること及びすでに受付けたかかるお申込を保留または取消することができます。

前記により受益権の取得のお申込の受付が中止された場合またはすでに受け付けられたかかるお申込みが保留された場合には、受益者は当該受付中止または保留以前に行った当日の取得のお申込みを撤回できます。ただし、受益者がその取得のお申込みを撤回しない場合には、当該受益権の発行価格は、当該受付中止または保留を解除した後の最初の基準価額の計算日の翌営業日を取得のお申込日として計算されたお申込価額となります(ただし、自動引き落し投資契約に基づいて収益分配金を再投資する場合には、受益権の発行価格は、当該計算日における基準価額となります。)。

以下、金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所及び金融商品取引法第2条第8項第3号ロに規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場及び当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。

2 【換金（解約）手続等】

() 一部解約

a. 換金の受付

毎営業日お申しいただけます。

原則として営業日の午後3時までとなります。

上記時間を過ぎての受付は、翌営業日の取扱いとなります。

ただし、次のいずれかに該当する場合は、換金のお申込みの受付を行いません。

・インド、ベトナムの証券取引所休業日

・インド、ベトナムの銀行休業日

詳しくは取扱販売会社にお問い合わせください。なお、下記照会先においてもご確認ください。

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社）
電話番号 03-6229-0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時）
ホームページ <http://www.sbi-am.co.jp/>

b. 換金単位

最低単位を1円単位または1口単位として、販売会社が定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

換金単位は販売会社により異なる場合がありますので、販売会社にご確認ください。

なお、前記a.に記載の照会先においてもご確認ください。

c. 換金価額

換金請求受付日の翌営業日に算出される基準価額から信託財産留保額(当該基準価額に対し0.3%)を控除した価額となります。

基準価額については、上記a.の照会先においてもご確認ください。

(注) 信託財産留保額とは、換金に伴う有価証券売買委託手数料等の費用のことをいいます。

d. 換金代金のお支払い

原則として、換金請求受付日から起算して7営業日目以降にお支払いいたします。

e. その他

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。

上記にかかわらず、証券取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情（コンピュータの誤作動等により決済が不能となった場合等を含みます。）があると委託会社が判断したときは、受益権の一部解約のお申込の受付を中止すること及びすでに受付けられたお申込を保留または取消することができます。

前記により受益権の一部解約のお申込の受付けが中止された場合またはすでに受付けられたお申込が保留された場合には、受益者は当該受付中止または保留以前に行った当日の一部解約のお申込を撤回できます。ただし、受益者が当該一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止または保留を解除した後の最初の解約請求期間に一部解約の実行の請求を受付けたものとし、上記に準じて計算された価額とします。

() その他の一部解約・買取

信託約款の変更を行う場合においてその内容の変更が重大な場合に、信託約款に定める期間内に異議を述べた受益者は、投信法に定めるところにより、自己に帰属する受益権を本ファンドの信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。

本ファンドの受益権は、振替制度の適用を受けており、換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

換金の請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

() 基準価額の算出方法

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令及び一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます（基準価額は、便宜上1万口単位で表示される場合があります。）。

() 主な投資対象資産の評価方法

マザーファンド	原則として、基準価額計算日の基準価額で評価します。
株式	原則として、基準価額計算日の金融商品取引所の終値で評価します。
公社債等	原則として、基準価額計算日における以下のいずれかの価額で評価します。 日本証券業協会発表の店頭売買参考統計値（平均値） 第一種金融商品取引業者、銀行等の提示する価額 価格情報会社の提供する価額
外貨建資産	原則として、基準価額計算日の対顧客相場の仲値で円換算を行います。

外国の公社債等については、基準価額計算時に知り得る直近の日とします。

() 基準価額の算出頻度・照会方法

基準価額は、委託会社の営業日において日々算出されます。

基準価額は、販売会社または委託会社にお問い合わせいただけるほか、原則として翌日付の日本経済新聞朝刊の証券欄「オープン基準価格」の紙面に掲載されます。

委託会社における照会先：

SBIアセットマネジメント株式会社（委託会社） 電話番号 03 - 6229 - 0097（受付時間：毎営業日の午前9時～午後5時） ホームページ http://www.sbiam.co.jp/

(2) 【保管】

本ファンドの受益権は社振法の規定の適用を受け、受益権の帰属は振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まるため、原則として受益証券は発行されません。したがって、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

本ファンドの信託期間は2007年7月25日から開始し、原則として無期限です。ただし、後記の「(5) その他」の規定等によりファンドを償還させることがあります。

(4)【計算期間】

この信託の計算期間は、原則として毎年6月5日から12月4日及び12月5日から翌年6月4日までとすることを原則とします。

各計算期間終了日に該当する日が休業日のとき、各計算期間終了日は翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

(5)【その他】

() 受益権総口数の減少に伴う繰上償還

委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、受益権総口数が10億口を下回ることとなった場合には、受託会社と協議のうえ、あらかじめ、監督官庁に届出ることにより、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

委託会社は、かかる事項について、あらかじめ、これを公告し、かつ、知られたる受益者に対して書面交付の手配をします。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。繰上償還を行う場合は、下記()に定める手続を準用します。

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.sbi-am.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日刊工業新聞に掲載します。

() その他の事由による信託の終了

監督官庁の命令があったとき、委託会社の登録取消、解散、業務廃止のとき(ただし、他の投資信託委託会社が委託会社の業務を引き継ぐときを除きます。)、受託会社が信託業務を営む銀行でなくなったとき(ただし、他の信託銀行が受託会社の業務を引き継ぐときを除きます。)、受託会社の辞任及び解任に際し新受託会社を選任できないときには、委託会社は信託契約を解約し、信託は終了します。

また、委託会社は、信託期間中においてこの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。委託会社は、かかる事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面を信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、信託契約にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。かかる公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は1カ月を下らないものとします。かかる一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、信託契約の解約をしません。委託会社は、信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。以上は、信託財産の状況に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、一定の期間が1カ月を下らずにその公告及び書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.sbiam.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日刊工業新聞に掲載します。

委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、下記「()約款変更」に該当する場合を除き、その委託会社と受託会社との間において存続します。

()約款変更

委託会社は、監督官庁の命令があったとき、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を監督官庁に届出ます。

委託会社は、変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、信託約款にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。かかる公告及び書面には、受益者で異議ある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は1ヶ月を下らないものとします。当該一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、信託約款の変更はできません。委託会社は、信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.sbiam.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日刊工業新聞に掲載します。

()反対者の買取請求権

上記()に規定する信託契約の解約または上記()に規定する信託約款の変更を行う場合において、上記()または上記()の一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、委託会社の指定する証券会社及び登録金融機関を通じ、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

()関係法人との契約の更改

募集・販売契約

委託会社と販売会社との間の募集・販売契約は、当事者の別段の意思表示のない限り、1年ごとに自動的に更新されます。募集・販売契約は、当事者間の合意により変更することができます。

()運用報告書

本ファンドは、毎計算期末(毎年6月4日及び12月4日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日。)及び信託終了時に期中の運用経過、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて交付します。

運用報告書(全体版)は、委託会社のホームページに掲載します。ただし、受益者から運用報告書(全体版)の請求があった場合には、これを交付します。

4 【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

() 収益分配金・償還金の請求権

受益者は、ファンドの収益分配金・償還金を所有する受益権の口数に応じて委託会社に請求する権利を有します。収益分配金の請求権は支払開始日から5年間、償還金の請求権は支払開始日から10年間その支払いを請求しないときはその権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

(注) 本ファンドの受益権は、振替制度の適用を受けており、その場合の分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者に、原則として決算日から起算して5営業日目以降にお支払いします。

() 換金請求権

受益者は、受託権について販売会社に換金を請求する権利を有します。

() 帳簿閲覧権

受益者は委託会社に対し、その営業時間内に本ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧・謄写を請求することが出来ます。

() 反対者の買取請求

信託約款の変更の内容が重大なものに該当するとき、または信託契約の解約が行われる場合、所定の期間内に異議を述べた受益者は投信法第18条の規定に基づき、その受益権を公正な価額で買取よう請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

- 1) 本ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

- 2) 本ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第25期計算期間(2019年6月5日から2019年12月4日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

1【財務諸表】

【SBIインド&ベトナム株ファンド】

(1)【貸借対照表】

(単位:円)

	第24期 2019年 6月 4日現在	第25期 2019年12月 4日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	790,713	662,838
コール・ローン	310,431,117	279,974,104
親投資信託受益証券	9,139,029,233	8,995,135,572
流動資産合計	9,450,251,063	9,275,772,514
資産合計	9,450,251,063	9,275,772,514
負債の部		
流動負債		
未払解約金	15,756,973	37,526,876
未払受託者報酬	4,030,185	3,931,817
未払委託者報酬	96,724,366	94,363,521
未払利息	850	767
その他未払費用	1,080,000	1,100,877
流動負債合計	117,592,374	136,923,858
負債合計	117,592,374	136,923,858
純資産の部		
元本等		
元本	8,790,183,749	8,773,841,242
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金()	542,474,940	365,007,414
(分配準備積立金)	1,329,557,586	1,236,386,255
元本等合計	9,332,658,689	9,138,848,656
純資産合計	9,332,658,689	9,138,848,656
負債純資産合計	9,450,251,063	9,275,772,514

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第24期		第25期	
	自 至	2018年12月5日 2019年6月4日	自 至	2019年6月5日 2019年12月4日
営業収益				
受取利息		29		23
有価証券売買等損益		125,402,586		73,625,661
営業収益合計		125,402,615		73,625,638
営業費用				
支払利息		186,762		145,691
受託者報酬		4,030,185		3,931,817
委託者報酬		96,724,366		94,363,521
その他費用		1,091,875		1,100,877
営業費用合計		102,033,188		99,541,906
営業利益又は営業損失()		23,369,427		173,167,544
経常利益又は経常損失()		23,369,427		173,167,544
当期純利益又は当期純損失()		23,369,427		173,167,544
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額()		1,032,087		18,223,973
期首剰余金又は期首欠損金()		539,042,561		542,474,940
剰余金増加額又は欠損金減少額		28,535,319		14,960,868
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		28,535,319		14,960,868
剰余金減少額又は欠損金増加額		49,504,454		37,484,823
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		49,504,454		37,484,823
分配金		-		-
期末剰余金又は期末欠損金()		542,474,940		365,007,414

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、計算期間末日の基準価額で評価しております。
-----------------	--

(貸借対照表に関する注記)

項目	第24期 2019年 6月 4日現在	第25期 2019年12月 4日現在
1. 計算期間の末日における受益権の総数	8,790,183,749口	8,773,841,242口
2. 1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.0617円 (10,617円)	1.0416円 (10,416円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第24期 自 2018年12月 5日 至 2019年 6月 4日	第25期 自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
<p>1. 投資信託財産の運用の指図に係る権限の一部を委託するために要する費用</p> <p style="text-align: right;">23,383,162円</p> <p>なお、本ファンドの主要な投資対象である親投資信託「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」の運用の指図に係る権限の一部を委託しており、当該マザーファンドに係る費用のうち、本ファンドが負担している金額を記載しております。</p>	<p>1. 投資信託財産の運用の指図に係る権限の一部を委託するために要する費用</p> <p style="text-align: right;">17,483,278円</p> <p>なお、本ファンドの主要な投資対象である親投資信託「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」の運用の指図に係る権限の一部を委託しており、当該マザーファンドに係る費用のうち、本ファンドが負担している金額を記載しております。</p>
<p>2. 分配金の計算過程</p> <p>費用控除後の配当等 収益額 A 5,174,354円</p> <p>費用控除後・繰越欠 損金補填後の有価証 券等損益額 B - 円</p> <p>収益調整金額 C 679,726,185円</p> <p>分配準備積立金額 D 1,324,383,232円</p> <p>当ファンドの分配対 象収益額 E=A+B+C+D 2,009,283,771円</p> <p>当ファンドの期末残 存口数 F 8,790,183,749口</p> <p>10,000口当たり収益 分配対象額 G=E/F×10,000 2,285.80円</p> <p>10,000口当たり分配 金額 H - 円</p> <p>収益分配金金額 I=F×H/10,000 - 円</p>	<p>2. 分配金の計算過程</p> <p>費用控除後の配当等 収益額 A - 円</p> <p>費用控除後・繰越欠 損金補填後の有価証 券等損益額 B - 円</p> <p>収益調整金額 C 772,006,809円</p> <p>分配準備積立金額 D 1,236,386,255円</p> <p>当ファンドの分配対 象収益額 E=A+B+C+D 2,008,393,064円</p> <p>当ファンドの期末残 存口数 F 8,773,841,242口</p> <p>10,000口当たり収益 分配対象額 G=E/F×10,000 2,289.05円</p> <p>10,000口当たり分配 金額 H - 円</p> <p>収益分配金金額 I=F×H/10,000 - 円</p>
<p>3. 追加情報</p> <p>2016年1月29日の日本銀行による「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入発表後、国内短期金融市場では利回り水準が低下しております。この影響により、利息に相当する額を本ファンドが実質的に負担する場合には受取利息のマイナスまたは支払利息として表示しております。</p>	<p>3. 追加情報</p> <p>同左</p>

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第24期 自 2018年12月 5日 至 2019年 6月 4日	第25期 自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
1.金融商品に対する取組方針	本ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	同左
2.金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	本ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、価格変動リスク、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。	同左
3.金融商品に係るリスクの管理体制	<p>常勤役員、審査室長、商品企画部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する運用考査会議にて、ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び改善勧告を行い、運用者の意思決定方向を調整・相互確認しております。</p> <p>市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>	<p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p>

金融商品の時価等に関する事項

項目	第24期 2019年 6月 4日現在	第25期 2019年12月 4日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませ	同左
2. 時価の算定方法	親投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 これらの商品は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左
4. 金融債権及び満期のある有価証券の計算期間末日後の償還予定額	金銭債権 全額が1年以内に償還されます。 有価証券(売買目的有価証券を除く。)のうち満期のあるもの 該当事項はありません。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第24期 自 2018年12月 5日 至 2019年 6月 4日	第25期 自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	188,182,638	71,947,993
合計	188,182,638	71,947,993

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第24期 自 2018年12月 5日 至 2019年 6月 4日	第25期 自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

(その他の注記)

本ファンドの計算期間における元本額の変動

項目	第24期	第25期
	自 2018年12月 5日 至 2019年 6月 4日	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
投資信託財産に係る元本の状況		
期首元本額	9,102,260,044円	8,790,183,749円
期中追加設定元本額	571,988,947円	639,985,190円
期中一部解約元本額	884,065,242円	656,327,697円

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1)株式

該当事項はありません。

(2)株式以外の有価証券

(単位:円)

種類	銘柄	券面総額(口)	評価額	備考
親投資信託受益証券	LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)	1,604,106,333	2,746,069,631	
	ステイト・バンク・オブ・インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)	1,690,968,704	2,855,538,850	
	SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)	1,621,317,868	1,880,404,463	
	SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)	1,401,039,471	1,513,122,628	
合計		6,317,432,376	8,995,135,572	

(注1)券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

< 参考情報 >

本報告書の開示対象であるファンド（SBIインド&ベトナム株ファンド）は、「LGM インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）」、「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）」、「SBIAM インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド（適格機関投資家専用）」の各受益証券を主要な投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上されている親投資信託受益証券は、すべて各マザーファンドの受益証券であります。各マザーファンドの2019年12月4日現在（以下「計算日」という。）の状況は次に示すとおりであります、それらは監査意見の対象外であります。

LGM インド株・マザーファンド（適格機関投資家専用）

貸借対照表

（単位：円）

2019年12月 4日現在

資産の部		
流動資産		
預金		113,746,857
コール・ローン		6,465
株式		2,632,291,330
流動資産合計		2,746,044,652
資産合計		2,746,044,652
負債の部		
流動負債		
流動負債合計		-
負債合計		-
純資産の部		
元本等		
元本		1,604,106,333
剰余金		
剰余金又は欠損金（ ）		1,141,938,319
元本等合計		2,746,044,652
純資産合計		2,746,044,652
負債純資産合計		2,746,044,652

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	2019年12月 4日現在
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、外国金融商品市場における計算日に知りうる直近の日の最終相場によっております。なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
3. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 株式の配当落ち日において、その予想配当金額を計上しております。
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 外貨建資産等については、投資信託財産の計算に関する規則第60条の規定に基づき、通貨の種類ごとに勘定を設けて、邦貨建資産等と区別する方法を採用しております。従って、外貨の売買については、同規則第61条の規定により処理し、為替差損益を算定しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	2019年12月 4日現在
1. 計算日における受益権の総数	1,604,106,333口
2. 1口当たり純資産額	1.7119円
(10,000口当たり純資産額)	(17,119円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
1.金融商品に対する取組方針	本ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2.金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	本ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、株価変動リスク、カントリーリスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。
3.金融商品に係るリスクの管理体制	常勤役員、審査室長、商品企画部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する運用審査会議にて、ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び改善勧告を行い、運用者の意思決定方向を調整・相互確認しております。 市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。 信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。 流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。

金融商品の時価等に関する事項

項目	2019年12月 4日現在
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	株式 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 これらの商品は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4.金融債権及び満期のある有価証券の計算日後の償還予定額	金銭債権 全額が1年以内に償還されます。 有価証券(売買目的有価証券を除く。)のうち満期のあるもの 該当事項はありません。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2019年12月 4日現在	
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	
株式		18,638,047
合計		18,638,047

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日	
該当事項はありません。	

(その他の注記)

元本の変動

区分	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	1,603,015,475円
期中追加設定元本額	1,090,858円
期中一部解約元本額	- 円
期末元本額	1,604,106,333円
元本の内訳	
SBIインド&ベトナム株ファンド	1,604,106,333円

(注) は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
インドルピー	PIDILITE INDUSTRIES LTD	47,886	1,321.60	63,286,137.60	
	SHREE CEMENT LIMITED	1,603	20,504.30	32,868,392.90	
	ESCORTS LTD	27,882	623.00	17,370,486.00	
	CONTAINER CORP OF INDIA LTD	111,130	560.25	62,260,582.50	
	BAJAJ AUTO LIMITED	23,400	3,259.75	76,278,150.00	
	MAHARASHTRA SCOOTERS LTD	4,615	4,617.35	21,309,070.25	
	MARUTI SUZUKI INDIA LTD	7,803	7,141.90	55,728,245.70	
	TITAN COMPANY LTD	60,375	1,158.15	69,923,306.25	
	DELTA CORP LTD	328,515	220.35	72,388,280.25	
	WONDERLA HOLIDAYS LTD	165,696	249.30	41,308,012.80	
	BRITANNIA INDUSTRIES LTD	19,748	3,048.30	60,197,828.40	
	ITC LTD	279,063	244.10	68,119,278.30	
	NESTLE INDIA LIMITED	5,424	14,337.50	77,766,600.00	
	UNITED SPIRITS LIMITED	119,980	595.65	71,466,087.00	
	BAJAJ CONSUMER CARE LTD	162,193	241.70	39,202,048.10	
	COLGATE-PALMOLIVE (INDIA)	53,898	1,448.60	78,076,642.80	
	EMAMI LTD	111,726	324.60	36,266,259.60	
	HINDUSTAN UNILEVER LIMITED	30,944	2,028.45	62,768,356.80	
	JYOTHY LABS LIMITED	226,450	164.60	37,273,670.00	
	HDFC BANK LIMITED	106,398	1,255.40	133,572,049.20	
	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	40,532	2,319.70	94,022,080.40	
	ICICI BANK LTD	223,475	509.35	113,826,991.25	
	INDUSIND BANK LTD	23,459	1,544.70	36,237,117.30	
	KOTAK MAHINDRA BANK LTD	62,990	1,646.75	103,728,782.50	
BAJAJ FINANCE LIMITED	23,375	3,964.55	92,671,356.25		
CARE RATINGS LIMITED	76,756	478.30	36,712,394.80		
SHRIRAM CITY UNION FINANCE LTD	45,035	1,369.70	61,684,439.50		
TATA CONSULTANCY SVS LTD	7,539	2,050.40	15,457,965.60		
インドルピー 小計		2,397,890		1,731,770,612.05 (2,632,291,330)	
合計		2,397,890		2,632,291,330 (2,632,291,330)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	合計金額に 対する比率
インドルピー	株式 28銘柄	95.9%	100.0%

(注)組入株式時価比率は、純資産に対する通貨ごとの比率であります。

(2)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

貸借対照表

(単位:円)

2019年12月 4日現在

資産の部	
流動資産	
預金	99,625,988
コール・ローン	8,399
株式	3,141,834,861
流動資産合計	3,241,469,248
資産合計	3,241,469,248
負債の部	
流動負債	
未払金	59,863,808
流動負債合計	59,863,808
負債合計	59,863,808
純資産の部	
元本等	
元本	1,884,021,670
剰余金	
剰余金又は欠損金()	1,297,583,770
元本等合計	3,181,605,440
純資産合計	3,181,605,440
負債純資産合計	3,241,469,248

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	2019年12月 4日現在
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、外国金融商品市場における計算日に知りうる直近の日の最終相場によっております。なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、国内における計算日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。
3. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
4. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 株式の配当落ち日において、その予想配当金額を計上しております。 為替差損益 約定日基準で計上しております。
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 外貨建資産等については、投資信託財産の計算に関する規則第60条の規定に基づき、通貨の種類ごとに勘定を設けて、邦貨建資産等と区別する方法を採用しております。従って、外貨の売買については、同規則第61条の規定により処理し、為替差損益を算定しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	2019年12月 4日現在
1. 計算日における受益権の総数	1,884,021,670口
2. 1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.6887円 (16,887円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
1. 金融商品に対する取組方針	本ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	本ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、株価変動リスク、カントリーリスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。 また、主に為替変動リスクを回避すること等を目的として、為替予約取引を行っております。為替予約取引に係る主要なリスクは、為替相場の変動による価格変動リスク及び取引相手の信用状況の変動により損失が発生する信用リスクであります。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	常勤役員、審査室長、商品企画部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する運用審査会議にて、ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び改善勧告を行い、運用者の意思決定方向を調整・相互確認しております。 市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。 信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。 流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。

金融商品の時価等に関する事項

項目	2019年12月 4日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	株式 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 これらの商品は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. 金融債権及び満期のある有価証券の計算日後の償還予定額	金銭債権 全額が1年以内に償還されます。 有価証券(売買目的有価証券を除く。)のうち満期のあるもの 該当事項はありません。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2019年12月 4日現在	
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	
株式		45,961,649
合計		45,961,649

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日	
該当事項はありません。	

(その他の注記)

元本の変動

区分	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	1,911,530,875円
期中追加設定元本額	1,809,327円
期中一部解約元本額	29,318,532円
期末元本額	1,884,021,670円
元本の内訳	
SBIインド&ベトナム株ファンド	1,690,968,704円
SBIインド・スリランカ・バランス・ファンド(年4回決算型)	193,052,966円

(注) は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
インドルピー	CHENNAI PETROLEUM CORPORATION LTD	93,000	121.40	11,290,200.00	
	GREAT EASTERN SHIPPING CO	90,536	312.75	28,315,134.00	
	RELIANCE INDUSTRIES LIMITED	94,000	1,578.85	148,411,900.00	
	FINE ORGANIC INDUSTRIES LTD	11,983	1,795.00	21,509,485.00	
	HINDALCO INDUSTRIES LIMITED	119,000	195.95	23,318,050.00	
	JK CEMENT LTD	37,171	1,150.00	42,746,650.00	
	NATIONAL ALUMINIUM COMPANY LTD	328,000	43.25	14,186,000.00	
	SHREE CEMENT LIMITED	2,250	20,504.30	46,134,675.00	
	STAR CEMENT LTD	269,044	91.00	24,483,004.00	
	TATA STEEL LIMITED	40,000	399.65	15,986,000.00	
	ULTRATECH CEMENT LTD	7,200	4,211.30	30,321,360.00	
	ABB LTD INDIA	19,000	1,460.70	27,753,300.00	
	CUMMINS INDIA LTD	36,000	532.60	19,173,600.00	
	GRINDWELL NORTON LTD	36,000	574.00	20,664,000.00	
	SCHAEFFLER INDIA LIMITED	4,700	4,308.05	20,247,835.00	
	SKF INDIA LTD	14,101	2,149.70	30,312,919.70	
	THERMAX LIMITED	24,589	999.50	24,576,705.50	
	TIMKEN INDIA LIMITED	40,000	898.80	35,952,000.00	
	TRIVENI TURBINE LTD	205,639	92.90	19,103,863.10	
	TEAMLEASE SERVICES LIMITED	7,400	2,400.45	17,763,330.00	
	ASHOK LEYLAND LIMITED	300,000	77.70	23,310,000.00	
	HERO MOTOCORP LTD	14,000	2,422.40	33,913,600.00	
	MARUTI SUZUKI INDIA LTD	10,500	7,141.90	74,989,950.00	
	SUNDRAM FASTENERS LTD	19,050	470.35	8,960,167.50	
	TUBE INVESTMENTS OF INDIA LT	45,000	489.65	22,034,250.00	
	TVS MOTOR COMPANY LTD	49,000	455.35	22,312,150.00	
	INDIAN TERRAIN FASHIONS LTD	208,909	67.20	14,038,684.80	
	CHALET HOTELS LTD	63,000	354.20	22,314,600.00	
	INDIAN HOTELS COMPANY LIMITED	143,000	148.70	21,264,100.00	
	LEMON TREE HOTELS LTD	290,000	60.00	17,400,000.00	
	COLGATE-PALMOLIVE (INDIA)	25,900	1,448.60	37,518,740.00	
	MARICO LTD	81,000	348.30	28,212,300.00	
	DR. REDDY'S LABORATORIES	13,600	2,859.05	38,883,080.00	
	LUPIN LTD	36,000	786.05	28,297,800.00	
	AU SMALL FINANCE BANK LIMITED	34,000	810.80	27,567,200.00	
	AXIS BANK LIMITED	167,900	733.40	123,137,860.00	
	HDFC BANK LIMITED	25,596	1,255.40	32,133,218.40	
	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	42,000	2,319.70	97,427,400.00	
	ICICI BANK LTD	304,400	509.35	155,046,140.00	
	KOTAK MAHINDRA BANK LTD	21,100	1,646.75	34,746,425.00	
	STATE BANK OF INDIA	237,000	336.25	79,691,250.00	
	CHOLAMANDALAM INVESTMENT AND	70,000	302.00	21,140,000.00	
	HDFC ASSET MANAGEMENT CO LTD	6,900	3,442.80	23,755,320.00	
	ICICI SECURITIES LTD	69,000	344.10	23,742,900.00	
	MAHINDRA & MAHINDRA FINANCIAL SERVICES LTD	80,200	343.50	27,548,700.00	
MULTI COMMODITY EXCH INDIA	26,000	1,171.30	30,453,800.00		
ICICI LOMBARD GENERAL INSURANCE COMPANY	16,500	1,387.40	22,892,100.00		
ASHIANA HOUSING LTD	200,000	90.25	18,050,000.00		
GODREJ PROPERTIES LTD	27,000	899.45	24,285,150.00		
PRESTIGE ESTATES PROJECTS LTD	70,000	352.90	24,703,000.00		
INFOSYS LIMITED	180,378	698.35	125,966,976.30		
TATA CONSULTANCY SVS LTD	39,946	2,050.40	81,905,278.40		
BHARTI AIRTEL LIMITED	167,947	459.10	77,104,467.70		
インドルピー 小計	4,564,439		2,066,996,619.40 (3,141,834,861)		
合計	4,564,439		3,141,834,861 (3,141,834,861)		

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	合計金額に 対する比率
インドルピー	株式 53銘柄	98.7%	100.0%

(注)組入株式時価比率は、純資産に対する通貨ごとの比率であります。

(2)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

貸借対照表

(単位:円)

2019年12月 4日現在

資産の部	
流動資産	
預金	18,876,206
コール・ローン	2,282
株式	1,861,585,585
流動資産合計	1,880,464,073
資産合計	1,880,464,073
負債の部	
流動負債	
流動負債合計	-
負債合計	-
純資産の部	
元本等	
元本	1,621,317,868
剰余金	
剰余金又は欠損金()	259,146,205
元本等合計	1,880,464,073
純資産合計	1,880,464,073
負債純資産合計	1,880,464,073

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

項目	2019年12月 4日現在
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、外国金融商品市場における計算日に知りうる直近の日の最終相場によっております。なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引 個別法に基づき、国内における計算日の対顧客先物売買相場の仲値で評価しております。
3. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
4. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 株式の配当落ち日において、その予想配当金額を計上しております。 為替差損益 約定日基準で計上しております。
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 外貨建資産等については、投資信託財産の計算に関する規則第60条の規定に基づき、通貨の種類ごとに勘定を設けて、邦貨建資産等と区別する方法を採用しております。従って、外貨の売買については、同規則第61条の規定により処理し、為替差損益を算定しております。

（貸借対照表に関する注記）

項目	2019年12月 4日現在
1. 計算日における受益権の総数	1,621,317,868口
2. 1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.1598円 (11,598円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
1. 金融商品に対する取組方針	本ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	本ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、株価変動リスク、カントリーリスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。 また、主に為替変動リスクを回避すること等を目的として、為替予約取引を行っております。為替予約取引に係る主要なリスクは、為替相場の変動による価格変動リスク及び取引相手の信用状況の変動により損失が発生する信用リスクであります。
3. 金融商品に係るリスクの管理体制	常勤役員、審査室長、商品企画部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する運用審査会議にて、ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び改善勧告を行い、運用者の意思決定方向を調整・相互確認しております。 市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。 信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。 流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。

金融商品の時価等に関する事項

項目	2019年12月 4日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 時価の算定方法	株式 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 上記以外の金融商品 これらの商品は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. 金融債権及び満期のある有価証券の計算日後の償還予定額	金銭債権 全額が1年以内に償還されます。 有価証券(売買目的有価証券を除く。)のうち満期のあるもの 該当事項はありません。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2019年12月 4日現在	
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	
株式		12,260,604
合計		12,260,604

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
該当事項はありません。

(その他の注記)

元本の変動

区分	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	1,686,452,567円
期中追加設定元本額	2,284,712円
期中一部解約元本額	67,419,411円
期末元本額	1,621,317,868円
元本の内訳	
SBIインド&ベトナム株ファンド	1,621,317,868円

(注) は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
インドルピー	OIL & NATURAL GAS CORPORATION LTD	92,998	127.65	11,871,194.70	
	RELIANCE INDUSTRIES LIMITED	71,740	1,578.85	113,266,699.00	
	ASIAN PAINTS LTD	14,688	1,736.45	25,504,977.60	
	TATA STEEL LIMITED	24,555	399.65	9,813,405.75	
	VEDANTA LTD	61,259	139.70	8,557,882.30	
	LARSEN & TOUBRO LIMITED	39,324	1,313.55	51,654,040.20	
	BAJAJ AUTO LIMITED	4,287	3,259.75	13,974,548.25	
	HERO MOTOCORP LTD	4,273	2,422.40	10,350,915.20	
	MAHINDRA&MAHINDRA LIMITED	30,708	522.85	16,055,677.80	
	MARUTI SUZUKI INDIA LTD	4,471	7,141.90	31,931,434.90	
	TATA MOTORS LTD	59,405	158.20	9,397,871.00	
	TATA MOTORS LTD-A-DVR	15,522	66.65	1,034,541.30	
	ITC LTD	285,026	244.10	69,574,846.60	
	HINDUSTAN UNILEVER LIMITED	23,901	2,028.45	48,481,983.45	
	SUN PHARMACEUTICAL INDUSTRIES	34,747	433.60	15,066,299.20	
	AXIS BANK LIMITED	59,447	733.40	43,598,429.80	
	HDFC BANK LIMITED	88,084	1,255.40	110,580,653.60	
	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	48,799	2,319.70	113,199,040.30	
	ICICI BANK LTD	210,998	509.35	107,471,831.30	
	INDUSIND BANK LTD	17,918	1,544.70	27,677,934.60	
	KOTAK MAHINDRA BANK LTD	38,746	1,646.75	63,804,975.50	
	STATE BANK OF INDIA	120,128	336.25	40,393,040.00	
	YES BANK LIMITED	60,454	59.50	3,597,013.00	
	BAJAJ FINANCE LIMITED	7,734	3,964.55	30,661,829.70	
	HCL TECHNOLOGIES LTD	18,212	1,124.55	20,480,304.60	
	INFOSYS LIMITED	119,828	698.35	83,681,883.80	
	TATA CONSULTANCY SVS LTD	35,199	2,050.40	72,172,029.60	
	TECH MAHINDRA LTD	20,652	746.25	15,411,555.00	
	BHARTI AIRTEL LIMITED	57,103	459.10	26,215,987.30	
	NTPC LIMITED	127,043	114.55	14,552,775.65	
	POWER GRID CORPORATION OF INDIA LTD	77,570	189.40	14,691,758.00	
インドルピー 小計		1,874,819		1,224,727,359.00 (1,861,585,585)	
合計		1,874,819		1,861,585,585 (1,861,585,585)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額(単位:円)であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	合計金額に 対する比率
インドルピー	株式 31銘柄	99.0%	100.0%

(注)組入株式時価比率は、純資産に対する通貨ごとの比率であります。

(2)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)

貸借対照表

(単位:円)

2019年12月 4日現在

資産の部	
流動資産	
預金	55,660,882
コール・ローン	8,076
株式	1,453,439,995
未収配当金	4,027,365
流動資産合計	1,513,136,318
資産合計	1,513,136,318
負債の部	
流動負債	
流動負債合計	-
負債合計	-
純資産の部	
元本等	
元本	1,401,039,471
剰余金	
剰余金又は欠損金()	112,096,847
元本等合計	1,513,136,318
純資産合計	1,513,136,318
負債純資産合計	1,513,136,318

注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	2019年12月 4日現在
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	株式 移動平均法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として、外国金融商品市場における計算日に知りうる直近の日の最終相場によっております。なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。
2. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。
3. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 株式の配当落ち日において、その予想配当金額を計上しております。
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 外貨建資産等については、投資信託財産の計算に関する規則第60条の規定に基づき、通貨の種類ごとに勘定を設けて、邦貨建資産等と区別する方法を採用しております。従って、外貨の売買については、同規則第61条の規定により処理し、為替差損益を算定しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	2019年12月 4日現在
1. 計算日における受益権の総数	1,401,039,471口
2. 1口当たり純資産額 (10,000口当たり純資産額)	1.0800円 (10,800円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
1.金融商品に対する取組方針	本ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。
2.金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	本ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 これらは、株価変動リスク、カントリーリスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。
3.金融商品に係るリスクの管理体制	<p>常勤役員、審査室長、商品企画部長、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成する運用審査会議にて、ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び改善勧告を行い、運用者の意思決定方向を調整・相互確認しております。</p> <p>市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>

金融商品の時価等に関する事項

項目	2019年12月 4日現在
1.貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2.時価の算定方法	<p>株式 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>上記以外の金融商品 これらの商品は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4.金融債権及び満期のある有価証券の計算日後の償還予定額	<p>金銭債権 全額が1年以内に償還されます。</p> <p>有価証券(売買目的有価証券を除く。)のうち満期のあるもの 該当事項はありません。</p>

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	2019年12月 4日現在	
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	
株式		14,884,325
合計		14,884,325

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
該当事項はありません。

(その他の注記)

元本の変動

区分	自 2019年 6月 5日 至 2019年12月 4日
投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	1,400,299,782円
期中追加設定元本額	739,689円
期中一部解約元本額	- 円
期末元本額	1,401,039,471円
元本の内訳	
SBIインド&ベトナム株ファンド	1,401,039,471円

(注) は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1)株式

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
ベトナムドン	FLC FAROS CONSTRUCTION JSC	78,204	24,500.00	1,915,998,000.00	
	VIETNAM NATIONAL PETROLEUM G	183,110	55,900.00	10,235,849,000.00	
	HOA PHAT GROUP JSC	370,861	23,450.00	8,696,690,450.00	
	AIRPORTS CORP OF VIETNAM JSC	254,900	73,800.00	18,811,620,000.00	
	VIETJET AVIATION JSC	208,392	145,400.00	30,300,196,800.00	
	HANOI BEER ALCOHOL & BEVERAG	32,240	76,900.00	2,479,256,000.00	
	MASAN GROUP CORP	167,340	64,200.00	10,743,228,000.00	
	SAIGON BEER ALCOHOL BEVERAGE	97,500	229,100.00	22,337,250,000.00	
	VIETNAM DAIRY PRODUCTS JSC	227,506	116,400.00	26,481,698,400.00	
	BANK FOR FOREIGN TRADE JSC	349,000	82,000.00	28,618,000,000.00	
	BANK FOR INVESTMENT AND DEVE	376,690	39,700.00	14,954,593,000.00	
	HDBANK	56,860	25,550.00	1,452,773,000.00	
	MILITARY COMMERCIAL JOINT	265,765	21,550.00	5,727,235,750.00	
	VIETNAM JS COMMERCIAL BANK FOR INDUSTRY AND TRADE	937,380	19,600.00	18,372,648,000.00	
	VIETNAM PROSPERITY JSC BANK	365,735	18,700.00	6,839,244,500.00	
	VIETNAM TECHNOLOGICAL & COMM	150,000	22,550.00	3,382,500,000.00	
	BAO VIET HOLDINGS	100,110	66,700.00	6,677,337,000.00	
	NO VA LAND INVESTMENT GROUP	112,987	56,200.00	6,349,869,400.00	
	VINCOM RETAIL JSC	254,812	34,000.00	8,663,608,000.00	
	VINGROUP JSC	242,752	115,000.00	27,916,480,000.00	
	VINHOMES JSC	238,775	91,800.00	21,919,545,000.00	
	FPT CORP	103,736	54,500.00	5,653,612,000.00	
	PETROVIETNAM GAS JOINT STOCK	213,100	97,200.00	20,713,320,000.00	
ベトナムドン 小計		5,387,755		309,242,552,300.00 (1,453,439,995)	
合計		5,387,755		1,453,439,995 (1,453,439,995)	

(注1)通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額（単位:円）であります。

(注2)合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	合計金額に 対する比率
ベトナムドン	株式 23銘柄	96.1%	100.0%

(注)組入株式時価比率は、純資産に対する通貨ごとの比率であります。

(2)株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2 【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

	2019年11月29日現在
資産総額	9,473,223,130円
負債総額	120,317,087円
純資産総額(-)	9,352,906,043円
発行済口数	8,783,446,194口
1口当たり純資産額(/)	1.0648円
1万口当たり純資産額	10,648円

(参考)

< LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用) >

純資産額計算書

	2019年11月29日現在
資産総額	2,805,356,231円
負債総額	円
純資産総額(-)	2,805,356,231円
発行済口数	1,604,106,333口
1口当たり純資産額(/)	1.7489円
1万口当たり純資産額	17,489円

< ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用) >

純資産額計算書

	2019年11月29日現在
資産総額	3,267,481,414円
負債総額	16,421,655円
純資産総額(-)	3,251,059,759円
発行済口数	1,884,021,670口
1口当たり純資産額(/)	1.7256円
1万口当たり純資産額	17,256円

< SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用) >

純資産額計算書

	2019年11月29日現在
資産総額	1,927,726,245円
負債総額	円
純資産総額(-)	1,927,726,245円
発行済口数	1,621,317,868口
1口当たり純資産額(/)	1.1890円
1万口当たり純資産額	11,890円

< SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用) >

純資産額計算書

	2019年11月29日現在
資産総額	1,545,220,480円
負債総額	円
純資産総額(-)	1,545,220,480円
発行済口数	1,401,039,471口
1口当たり純資産額(/)	1.1029円
1万口当たり純資産額	11,029円

第4 【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換についてその手続、取扱場所、取次所、代理人の名称及び住所並びに手数料

該当事項はありません。

(2) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

(3) 受益権の譲渡

受益権の譲渡制限は設けておりません。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

前記の申請のある場合には、前記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少及び譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(4) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社及び受託会社に対抗することができません。

(5) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(6) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としません。）に支払います。

(7) 質権口記載または記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金及び償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

資本金の額

- () 資本金の額(2019年11月末日現在)
委託会社の資本金の額は金4億20万円です。
- () 発行する株式の総数
委託会社の発行する株式の総数は14万6,400株です。
- () 発行済株式の総数
委託会社がこれまでに発行した株式の総数は3万6,600株です。
- (iv) 最近5年間における主な資本の額の増減
該当事項はありません。

委託会社の機構

- (i) 会社の意思決定機構
経営の意思決定機関として取締役会をおきます。取締役会は、委託会社の業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務を監督します。代表取締役である社長は、委託会社を代表し、全般の業務執行について指揮統括します。取締役は、委嘱された業務の執行にあたり、また、社長に事故有るときにその職務を代行します。委託会社の一切の活動における法令遵守に関して管理監督する機関としてコンプライアンス委員会をおきます。コンプライアンス委員会は、委託会社が法律上・規制上の一切の要件と社内の方針とを遵守するという目的に関し、法律により許可されているすべての権限を行使することができます。監査役は、委託会社の会計監査及び業務監査を行います。
- () 投資運用の意思決定機構
 - ア)市場環境分析・企業分析
ファンドマネジャー、アナリストによる市場環境、業種、個別企業などの調査・分析及び基本投資戦略の協議・策定を行います。
 - イ)投資基本方針の策定
最高運用責任者のもとで開催される「運用会議」において、市場動向・投資行動・市場見通し・投資方針等を策定します。
 - ウ)運用基本方針の決定
「運用会議」の策定内容を踏まえ、常勤役員、最高運用責任者、運用部長及び運用部マネジャーをもって構成される「投資戦略委員会」において運用の基本方針が決定されます。

エ)投資銘柄の策定、ポートフォリオの構築

ファンドマネジャーは、この運用の基本方針に沿って、各ファンドの運用計画書を策定し、最高運用責任者の承認後、売買の指図を行います。ただし、未公開株及び組合への投資を行う場合は、それぞれ「未公開株投資委員会」、「組合投資委員会」での承認後、売買の指図等を行います。

オ)パフォーマンス分析、リスク分析・評価

ファンドのリスク特性分析、パフォーマンスの要因分析の報告及び監視を行い、運用方針の確認・見直しを行います。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資一任契約に係る業務（投資運用業）、投資助言業務（投資助言・代理業）及び第二種金融商品取引業に係る業務の一部を行っています。

現在、委託会社が運用を行っている投資信託（マザーファンドは除きます）は以下の通りです。

(2019年11月末日現在)

ファンドの種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	59	254,465
単位型株式投資信託	4	11,743

3 【委託会社等の経理状況】

(1) 財務諸表の作成方法について

委託会社であるSBIアセットマネジメント株式会社の財務諸表は「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下、「財務諸表等規則」という。）、並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

また、当社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）並びに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づき作成されております。

なお、財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(2) 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（自2018年4月1日至2019年3月31日）の財務諸表及び当事業年度の中間会計期間（自2019年4月1日至2019年9月30日）の中間財務諸表について、太陽有限責任監査法人の監査及び中間監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	656,253	960,929
前払費用	36,884	43,348
未収入金		15,495
未収委託者報酬	502,468	466,454
未収投資助言報酬		55
その他	15,614	13,730
流動資産合計	1,211,221	1,500,013
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,121	11,426
器具備品	1,446	2,394
有形固定資産合計	2,567	13,821
無形固定資産		
電話加入権	67	67
ソフトウェア	5,708	3,936
商標権	1,330	1,245
無形固定資産合計	7,105	5,249
投資その他の資産		
投資有価証券	913,644	740,270
関係会社株式	127,776	
繰延税金資産	35,948	121,163
長期差入保証金	19,856	19,802
その他	3,360	1,764
投資その他の資産合計	1,100,586	883,000
固定資産合計	1,110,259	902,071
資産合計	2,321,480	2,402,084

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	4,011	1,913
未払金	455,275	379,118
未払手数料	419,007	336,493
未払法人税等	143,048	80,436
未払消費税等	33,817	10,134
流動負債合計	636,152	471,603
負債合計	636,152	471,603
純資産の部		
株主資本		
資本金	400,200	400,200
利益剰余金		
利益準備金	30,012	30,012
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,315,376	1,682,828
利益剰余金合計	1,345,388	1,712,840
株主資本合計	1,745,588	2,113,040
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	60,260	182,559
評価・換算差額等合計	60,260	182,559
純資産合計	1,685,327	1,930,481
負債純資産合計	2,321,480	2,402,084

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	当事業年度 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)
営業収益		
委託者報酬	3,207,709	3,223,568
運用受託報酬	16,380	
投資助言報酬		56
その他営業収益	4,500	
営業収益計	3,228,590	3,223,624
営業費用		
支払手数料	2,173,300	2,186,795
広告宣伝費	48,444	15,208
調査費	27,077	31,778
調査費	27,077	31,778
委託計算費	121,126	123,090
営業雑経費	23,392	25,835
通信費	1,208	1,330
印刷費	19,323	20,581
協会費	2,049	2,463
諸会費	183	12
その他営業雑経費	628	1,447
営業費用計	2,393,341	2,382,708
一般管理費		
給料	156,504	178,095
役員報酬	44,607	51,028
給料・手当	111,896	127,066
交際費	169	109
旅費交通費	7,996	12,073
福利厚生費	20,444	23,117
租税公課	11,602	10,675
不動産賃借料	18,383	18,138
消耗品費	1,772	2,313
事務委託費	10,188	15,251
退職給付費用	4,578	5,163
固定資産減価償却費	2,422	3,550
諸経費	13,285	15,057
一般管理費計	247,348	283,545
営業利益	587,900	557,370
営業外収益		
受取利息	19	4
為替差益	0	10
助成金収入		1,140
雑収入	602	364
営業外収益計	622	1,519
営業外費用		
雑損失	486	309
営業外費用計	486	309
経常利益	588,035	558,580

	前事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	当事業年度 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)
特別損失		
子会社清算損		52,280
事務所移転費用		3,064
特別損失計		55,344
税引前当期純利益	588,035	503,235
法人税、住民税及び事業税	188,117	167,023
法人税等調整額	6,202	31,239
法人税等合計	181,914	135,783
当期純利益	406,121	367,452

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	利益剰余金				その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		利益準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計				
当期首残高	400,200	30,012	909,254	939,266	1,339,466			1,339,466
当期変動額								
当期純利益			406,121	406,121	406,121			406,121
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						60,260	60,260	60,260
当期変動額合計			406,121	406,121	406,121	60,260	60,260	345,861
当期末残高	400,200	30,012	1,315,376	1,345,388	1,745,588	60,260	60,260	1,685,327

当事業年度（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	利益剰余金				その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		利益準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計				
当期首残高	400,200	30,012	1,315,376	1,345,388	1,745,588	60,260	60,260	1,685,327
当期変動額								
当期純利益			367,452	367,452	367,452			367,452
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						122,298	122,298	122,298
当期変動額合計			367,452	367,452	367,452	122,298	122,298	245,153
当期末残高	400,200	30,012	1,682,828	1,712,840	2,113,040	182,559	182,559	1,930,481

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法を採用しております。なお主な耐用年数は、建物が8-15年、器具備品が3-15年であります。

無形固定資産

定額法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに税効果関係注記を変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」9,353千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」35,948千円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第4項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解（注8）(1)（評価性引当額の合計額を除く。）に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前事業年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取り扱いに従って記載しておりません。

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成30年3月31日)		当事業年度 (平成31年3月31日)	
*	有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。	*	有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。
	建物 110千円		建物 1,009千円
	器具備品 4,024千円		器具備品 2,110千円
	合計 4,135千円		合計 3,120千円

(損益計算書関係)

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	36,600			36,600

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	増加	減少	当事業年度末株式数
普通株式(株)	36,600			36,600

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

（金融商品関係）

前事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、自らが運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を投資有価証券として保有しております。その他、一時的な余剰資金の運用については短期的な預金等に限定しております。なお、事業及び設備投資に必要な自己資金を有しているため、外部からの資金調達計画はありません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬は、受託銀行にて分別管理されている信託財産より生じる信託報酬債権であり、その信用リスクは軽微であります。投資有価証券はファンドの自己設定に関連する投資信託であり、基準価額の変動リスクに晒されております。営業債務である未払手数料等は、1年以内の支払期日でありませ

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については経理規程に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理しております。

市場リスク（価格、為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に基準価額を把握することにより管理しております。

2．金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）を参照ください。）。

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 預金	656,253	656,253	
(2) 未収委託者報酬	502,468	502,468	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	913,644	913,644	
資産計	2,072,366	2,072,366	
未払金	455,275	455,275	
負債計	455,275	455,275	

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項
資産

(1)預金 (2)未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

その他有価証券(投資信託)は基準価額によっております。

負債

未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額
(1) 子会社株式	127,776
(2) 長期差入保証金	19,856

(1) 子会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしておりません。

(2) 長期差入保証金については、期限の定めが無いため、将来キャッシュ・フローの算定が困難であることから、時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内
預金	656,253
未収委託者報酬	502,468
合計	1,158,722

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、自らが運用する投資信託の商品性維持を目的として、当該投資信託を投資有価証券として保有しております。その他、一時的な余剰資金の運用については短期的な預金等に限定しております。なお、事業及び設備投資に必要な自己資金を有しているため、外部からの資金調達の計画はありません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収委託者報酬は、受託銀行にて分別管理されている信託財産より生じる信託報酬債権であり、その信用リスクは軽微であります。未収投資助言報酬は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券はファンドの自己設定に関連する投資信託であり、基準価額の変動リスクに晒されております。営業債務である未払手数料等は、1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権については経理規程に従い、取引先ごとに期日及び残高を管理しております。

市場リスク(価格、為替や金利等の変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に基準価額を把握することにより管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成31年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)を参照ください。)

(単位:千円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 預金	960,929	960,929	
(2) 未収入金	15,495	15,495	
(3) 未収委託者報酬	466,454	466,454	
(4) 未収投資助言報酬	55	55	
(5) 投資有価証券 其他有価証券	740,270	740,270	
資産計	2,183,205	2,183,205	
未払金	379,118	379,118	
負債計	379,118	379,118	

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)預金 (2)未収入金 (3)未収委託者報酬 (4)未収投資助言報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5)投資有価証券

その他有価証券(投資信託)は基準価額によっております。

負債

未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:千円)

区分	貸借対照表計上額
長期差入保証金	19,802

長期差入保証金については、期限の定めが無いため、将来キャッシュ・フローの算定が困難であることから、時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内
預金	960,929
未収入金	15,495
未収委託者報酬	466,454
未収投資助言報酬	55
合計	1,442,934

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 子会社株式

子会社株式(貸借対照表計上額 関係会社株式 127,776千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

(単位:千円)

区分		貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他			
	小計			
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	913,644	1,000,500	86,855
	小計	913,644	1,000,500	86,855
合計		913,644	1,000,500	86,855

3. 売却したその他有価証券

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1)株式			
(2)債券			
(3)その他	24,133		486
合計	24,133		486

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. その他有価証券

(単位:千円)

区分		貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他			
	小計			
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	740,270	1,003,400	263,129
	小計	740,270	1,003,400	263,129
合計		740,270	1,003,400	263,129

2. 売却したその他有価証券

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1)株式			
(2)債券			
(3)その他	10,690		309
合計	10,690		309

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出型年金制度を採用しております。

2. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度（自平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）4,578千円、当事業年度（自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日）5,163千円であります。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)																																								
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">繰延税金資産</td> </tr> <tr> <td>電話加入権</td> <td style="text-align: right;">438千円</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式評価損</td> <td style="text-align: right;">19,114</td> </tr> <tr> <td>未払事業税</td> <td style="text-align: right;">6,752</td> </tr> <tr> <td>その他未払税金</td> <td style="text-align: right;">2,301</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">26,595</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">299</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">55,501</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額</td> <td style="text-align: right;">19,552</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">35,948</td> </tr> </table>	繰延税金資産		電話加入権	438千円	関係会社株式評価損	19,114	未払事業税	6,752	その他未払税金	2,301	その他有価証券評価差額金	26,595	その他	299	繰延税金資産小計	55,501	評価性引当額	19,552	繰延税金資産合計	35,948	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">繰延税金資産</td> </tr> <tr> <td>電話加入権</td> <td style="text-align: right;">438千円</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式評価損</td> <td style="text-align: right;">35,122</td> </tr> <tr> <td>未払事業税</td> <td style="text-align: right;">2,735</td> </tr> <tr> <td>その他未払税金</td> <td style="text-align: right;">1,610</td> </tr> <tr> <td>その他有価証券評価差額金</td> <td style="text-align: right;">80,570</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1,124</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産小計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">121,601</td> </tr> <tr> <td>評価性引当額（注）</td> <td style="text-align: right;">438</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">121,163</td> </tr> </table> <p>（注）評価性引当額の変動の主な内容は、子会社株式評価損に係る評価性引当額の減少です。</p>	繰延税金資産		電話加入権	438千円	関係会社株式評価損	35,122	未払事業税	2,735	その他未払税金	1,610	その他有価証券評価差額金	80,570	その他	1,124	繰延税金資産小計	121,601	評価性引当額（注）	438	繰延税金資産合計	121,163
繰延税金資産																																									
電話加入権	438千円																																								
関係会社株式評価損	19,114																																								
未払事業税	6,752																																								
その他未払税金	2,301																																								
その他有価証券評価差額金	26,595																																								
その他	299																																								
繰延税金資産小計	55,501																																								
評価性引当額	19,552																																								
繰延税金資産合計	35,948																																								
繰延税金資産																																									
電話加入権	438千円																																								
関係会社株式評価損	35,122																																								
未払事業税	2,735																																								
その他未払税金	1,610																																								
その他有価証券評価差額金	80,570																																								
その他	1,124																																								
繰延税金資産小計	121,601																																								
評価性引当額（注）	438																																								
繰延税金資産合計	121,163																																								
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">30.6%</td> </tr> <tr> <td>（調整）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価性引当額の増減</td> <td style="text-align: right;">3.4</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.3</td> </tr> <tr> <td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black;">27.0</td> </tr> </table>	法定実効税率	30.6%	（調整）		評価性引当額の増減	3.4	住民税均等割	0.1	その他	0.3	税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.0																												
法定実効税率	30.6%																																								
（調整）																																									
評価性引当額の増減	3.4																																								
住民税均等割	0.1																																								
その他	0.3																																								
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.0																																								

（セグメント情報）

前事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（関連情報）

1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益
グローバル・リート・トリプル・プレミアム・ファンド （毎月分配型）	489,935
SBI日本小型成長株選抜ファンド	472,434
SBI中小型割安成長株ファンドジェイリバイブ （年2回決算型）	347,593
SBI中小型割安成長株ファンドジェイリバイブ	323,110

（報告セグメントごとの減損損失に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報）

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

（セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（関連情報）

1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益
SBI 中小型割安成長株ファンドジェイリバイブ (年2回決算型)	788,160
SBI 中小型割安成長株ファンドジェイリバイブ	322,488
SBI 小型成長株ファンド ジェイクル	321,539

（報告セグメントごとの減損損失に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報）

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

前事業年度(自平成29年4月1日至平成30年3月31日)

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
同一の 親会社 を持つ 会社	株式会社SBI証券	東京都港区	48,323	証券業		販売委託・販促	販売委託 支払手数料	862,570	未払金	135,442
							広告宣伝 費	1,495		

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 販売委託の条件は、市場価格を勘案し、取引先との協議によって決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

モーニングスター株式会社(東京証券取引所 ジャスダック市場)

SBIグローバルアセットマネジメント株式会社(非上場)

SBIホールディングス株式会社(東京証券取引所に上場)

当事業年度(自平成30年4月1日至平成31年3月31日)

1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
同一の 親会社 を持つ 会社	株式会社SBI証券	東京都港区	48,323	証券業		販売委託・販促	販売委託 支払手数料	753,660	未払金	122,799
							広告宣伝 費	796		

(イ) 財務諸表提出会社の子会社

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の 内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)
子会社	SBI Fund Management Company S.A.	5, Allée Scheffer, L- 2520 Luxembourg	118	ファンド運 用管理等	100	投資助言	清算に伴 う残余財 産の配当	60,000	未収入金	15,495

(注) 1. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 販売委託の条件は、市場価格を勘案し、取引先との協議によって決定しております。

3. SBI Fund Management Company S.A.は清算終了に向けて事務手続きを進めており、取引金額は平成30年12月19日に行われた残余財産の初回配当によるものです。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

モーニングスター株式会社(東京証券取引所 ジャスダック市場)

SBIグローバルアセットマネジメント株式会社(非上場)

SBIホールディングス株式会社(東京証券取引所に上場)

(1株当たり情報)

	前事業年度 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日	当事業年度 自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
1株当たり純資産額	46,047円21銭	52,745円40銭
1株当たり当期純利益	11,096円21銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	10,039円69銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日	当事業年度 自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
当期純利益(千円)	406,121	367,452
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	406,121	367,452
期中平均株式数(株)	36,600	36,600

(重要な後発事象)

前事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

当中間会計期間
(2019年9月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	677,480
前払費用	32,687
未収委託者報酬	482,740
未収運用受託報酬	137
その他	12,248
流動資産合計	1,205,294
固定資産	
有形固定資産	
建物	10,875
器具備品	5,593
有形固定資産合計	16,469
無形固定資産	
電話加入権	67
ソフトウェア	3,157
商標権	1,594
無形固定資産合計	4,818
投資その他の資産	
投資有価証券	1,055,736
長期差入保証金	19,802
繰延税金資産	107,528
その他	1,692
投資その他の資産合計	1,184,759
固定資産合計	1,206,047
資産合計	2,411,341

当中間会計期間
(2019年9月30日)

負債の部	
流動負債	
預り金	523
未払金	351,735
未払手数料	311,407
その他未払金	40,328
未払法人税等	27,320
未払消費税等	2,361
流動負債合計	382,941
負債合計	382,941
純資産の部	
株主資本	
資本金	400,200
利益剰余金	
利益準備金	30,012
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	1,834,957
利益剰余金合計	1,864,969
株主資本合計	2,265,169
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	236,768
評価・換算差額等合計	236,768
純資産合計	2,028,400
負債純資産合計	2,411,341

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

当中間会計期間
(自 2019年4月1日
至 2019年9月30日)

営業収益	
委託者報酬	1,268,878
運用受託報酬	127
営業収益合計	1,269,005
営業費用	946,900
一般管理費	1 136,921
営業利益	185,184
営業外収益	2 36,009
営業外費用	225
経常利益	220,968
税引前中間純利益	220,968
法人税、住民税及び事業税	31,280
法人税等調整額	37,559
法人税等合計	68,840
中間純利益	152,128

注記事項

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定額法を採用しております。なお主な耐用年数は、建物が8 - 15年、器具備品が3 - 15年であります。

無形固定資産

定額法を採用しております。自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理

税抜方式によっております。

(中間貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	当中間会計期間 (2019年9月30日)
建物	1,560千円
器具備品	2,621千円

2 消費税及び地方消費税の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、未払消費税等として表示しております。

(中間損益計算書関係)

1 減価償却実施額

	当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
有形固定資産	1,054千円
無形固定資産	1,052千円

2 営業外収益に属する収益のうち、重要なもの

	当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
受取配当金	36,005千円

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2参照)。

当中間会計期間(2019年9月30日)

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	677,480	677,480	
(2) 未収委託者報酬	482,740	482,740	
(3) 未収運用受託報酬	137	137	
(4) 投資有価証券 其他有価証券	1,055,736	1,055,736	
資産計	2,216,094	2,216,094	
未払金	351,735	351,735	
負債計	351,735	351,735	

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金 (2)未収委託者報酬 (3)未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

其他有価証券(投資信託)は基準価額によっております。

負債

未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	中間貸借対照表計上額 (千円)
長期差入保証金	19,802

長期差入保証金については、期限の定めが無いため、将来キャッシュ・フローの算定が困難であることから、時価開示の対象とはしておりません。

（有価証券関係）

その他有価証券

当中間会計期間（2019年9月30日）

区分		中間貸借対照表 計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他			
	小計			
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1)株式			
	(2)債券			
	(3)その他	1,055,736	1,397,000	341,263
	小計	1,055,736	1,397,000	341,263
合計		1,055,736	1,397,000	341,263

（セグメント情報等）

当中間会計期間（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

（セグメント情報）

当社の事業は、投資運用業及び投資助言業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（関連情報）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

本邦以外への外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	営業収益
SBI中小型割安成長株ファンド ジェイリパイプ （年2回決算型）	327,341

（報告セグメントごとの減損損失に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報）

該当事項はありません。

（報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	当中間会計期間 (2019年9月30日)
1株当たり純資産額	55,420円78銭
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額(千円)	2,028,400
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	
普通株式に係る中間会計期間末の純資産額(千円)	2,028,400
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間会計期間末の普通株式の数(株)	36,600

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項 目	当中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり中間純利益金額	4,156円51銭
(算定上の基礎)	
中間純利益金額(千円)	152,128
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	152,128
普通株式の期中平均株式数(株)	36,600

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4 【利害関係人との取引制限】

委託者は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託者の親法人等（委託者の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）または子法人等（委託者が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。

委託者の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるものの他、委託者の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5 【その他】

定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

訴訟事件その他重要事項

委託会社及びファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

	名 称	資本金の額 (2019年3月末日現在)	事業の内容
受託会社	三井住友信託銀行株式会社	342,037百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。
再信託受託会社	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 ¹	51,000百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。
販売会社	株式会社SBI証券	48,323百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
	ひろぎん証券株式会社	5,000百万円	
	楽天証券株式会社	7,495百万円	
	立花証券株式会社	6,695百万円	
	東海東京証券株式会社	6,000百万円	
	auカブコム証券株式会社 ²	7,196百万円	
	日産証券株式会社	1,500百万円	
	S M B C日興証券株式会社	10,000百万円	
	フィリップ証券株式会社	950百万円	
	松井証券株式会社	11,945百万円	
	岡三オンライン証券株式会社	2,500百万円	
	GMOクリック証券株式会社	4,346百万円	
	フィデリティ証券株式会社	9,257百万円	
	株式会社群馬銀行	48,652百万円	銀行法に基づき、銀行業を営んでいます。
株式会社ジャパンネット銀行	37,250百万円		

1 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、関係当局の認可等を前提に、2020年7月27日付でJTCホールディングス株式会社および資産管理サービス信託銀行株式会社と合併し、株式会社日本カストディ銀行に商号を変更する予定です。

2 カブドットコム証券株式会社は、KDDIの資本参加に伴い2019年12月1日付でauカブコム証券株式会社に社名変更しました。

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

本ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

(2) 再信託受託会社

本ファンドの受託会社と再信託契約を締結し、信託事務の一部を行います。

(3) 販売会社

本ファンドの販売会社として募集・販売の取扱い、一部解約事務および収益分配金・解約金・償還金の支払い等を行います。

3【資本関係】

(1) 受託会社

該当事項はありません。

(2) 再信託受託会社

該当事項はありません。

(3) 販売会社

該当事項はありません。

第3【参考情報】

当計算期間において、ファンドにかかる金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類は以下の通り提出されております。

有価証券届出書	2019年 9月 4日
有価証券報告書	2019年 9月 4日

独立監査人の監査報告書

令和元年5月30日

SBIアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 本間 洋一指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石倉 毅典

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているSBIアセットマネジメント株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第33期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査に係る監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、SBIアセットマネジメント株式会社の平成31年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象に含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2020年1月23日

SBIアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松崎雅則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているSBIインド&ベトナム株ファンドの2019年6月5日から2019年12月4日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、SBIインド&ベトナム株ファンドの2019年12月4日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

SBIアセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象に含まれておりません。

独立監査人の中間監査報告書

2019年12月6日

SBIアセットマネジメント株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	本 間 洋 一
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	石 倉 毅 典

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているSBIアセットマネジメント株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第34期事業年度の中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、SBIアセットマネジメント株式会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象に含まれておりません。